

I 本市を取り巻く二次医療圏の医療提供体制の現状整理

1. 三島・豊能二次医療圏の基本特性

(1) 二次医療圏の地勢・人口

- ・現時点で三島・豊能両二次医療圏とも高齢化率には大差なく、さらに高齢化が進むことが予想されるが、三島二次医療圏のほうが高齢化は進むものと見込まれる。
- ・三島二次医療圏域内の自治体では、高齢化率は2015年、2025年とも本市が最も低い。これに対し高槻市・島本町では30%を超える。

図表-1-1-1 圏域全体

医療圏	構成自治体数	人口規模	面積	高齢化率	
				2015年	2025年
三島二次医療圏	3市1町	746,846人	213.46km ²	25.70%	28.40%
豊能二次医療圏	4市2町	1,045,318人	275.61km ²	25.10%	27.50%

図表-1-1-2 市町別

医療圏	構成自治体	人口規模	面積	高齢化率	
				2015年	2025年
三島二次医療圏	茨木市	282,012人	76.49km ²	23.50%	26.00%
	高槻市	350,145人	105.29km ²	27.80%	30.70%
	摂津市	84,727人	14.87km ²	24.40%	26.60%
	島本町	29,962人	16.81km ²	25.70%	30.20%
豊能二次医療圏*	吹田市	379,246人	36.09km ²	23.00%	25.40%
	箕面市	135,765人	47.90km ²	26.10%	29.30%

* 圏域全体の50%近く占める吹田市と箕面市の2市に着目し本市と比較分析を実施

※出典 人口：大阪府統計課（平成29（2017）年10月1日現在）

面積：国土地理院（平成29（2017）年10月1日現在）

高齢化率：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年3月推計）

(2) 基準病床数

- ・大阪府全体の一般及び療養既存病床数は平成29(2017)年6月30日時点では87,338床で、基準病床数(60,890床)に対して26,000床近い病床過剰
- ・三島二次医療圏については基準病床数が4,745床に対して既存病床数が6,502床で1,800床程度、豊能二次医療圏については基準病床数が6,711床に対して既存病床数が9,009床で2,300床程度過剰な状況

図表-1-1-3 二次医療圏別病床数

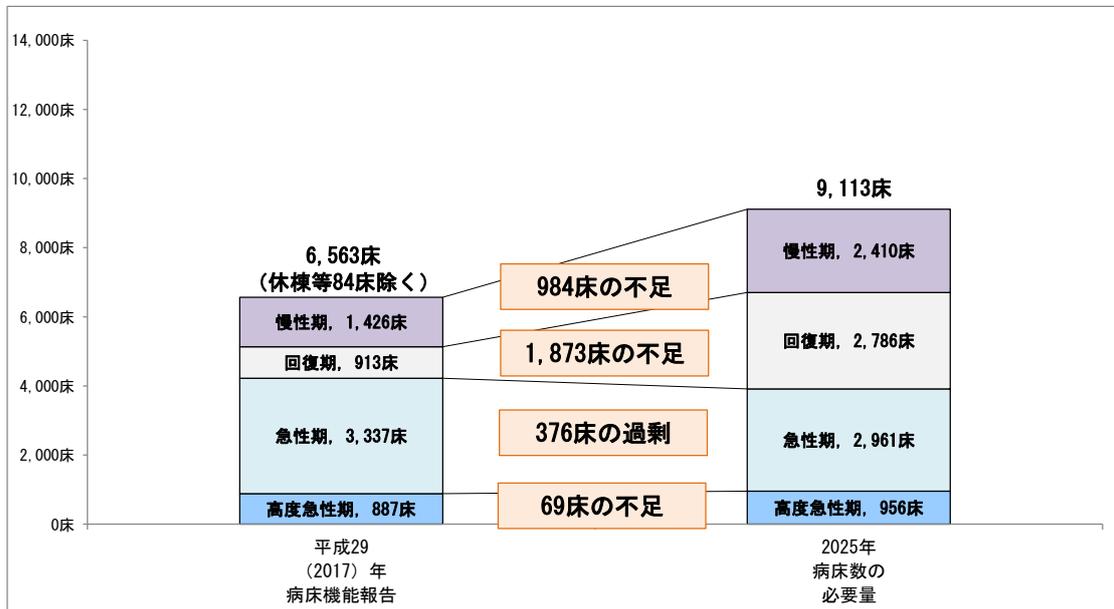
医療圏	構成する市町村	一般・療養病床			参 考			
		基準病床数	既存病床数	差異 (既存-基準)	病床機能報告数	人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
大阪府全域		60,890	87,338	26,448	88,688	8,831,642	1,905.14	4,636
豊能	豊中市、池田市、吹田市、箕面市、豊能町、能勢町	6,711	9,009	2,298	9,059	1,045,318	275.61	3,793
三島	高槻市、茨木市、摂津市、島本町	4,745	6,502	1,757	6,647	746,846	213.46	3,499

※出典 基準病床数：第7次大阪府医療計画（平成30（2018）年3月）
 既存病床数：同計画 平成29（2017）年6月30日現在
 病床機能報告数：平成29年7月1日時点での報告数
 人口：大阪府統計課（平成29（2017）年10月1日現在）
 面積：国土地理院（平成29（2017）年10月1日現在）
 人口密度：大阪府統計課（平成29（2017）年10月人口、平成28（2016）年10月1日時点の面積に基づいて算出）

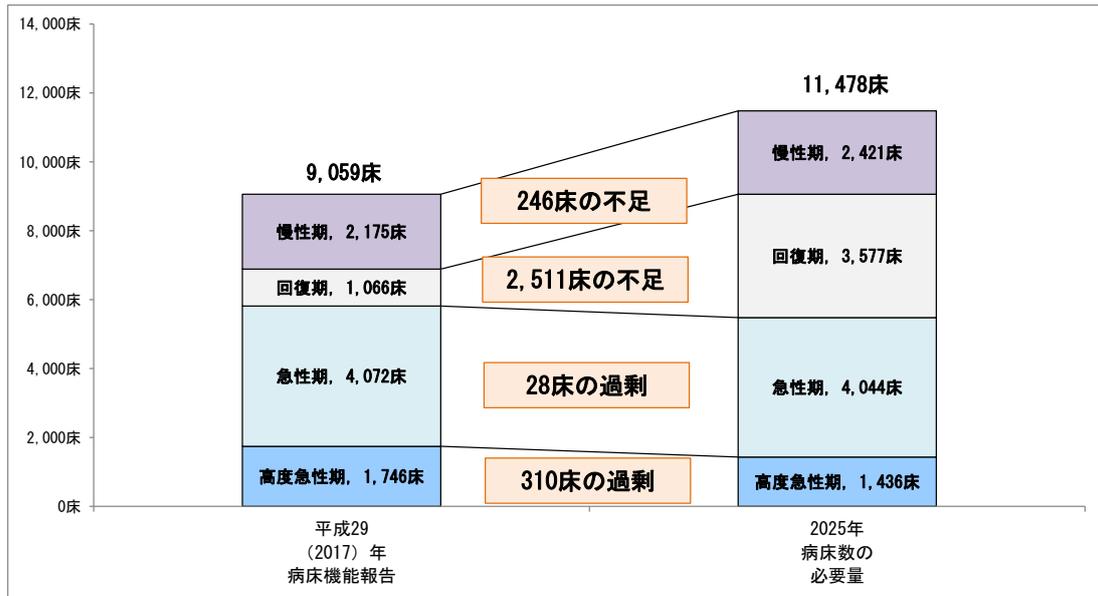
（3）地域医療構想における将来の病床数の必要量等

- ・ 三島二次医療圏における病床機能報告数は計6,647床（うち休棟等84床を含む。）に対し、2025年の病床数の必要量（推計値）は計9,113床で、高度急性期については、将来的な病床数の必要量が若干不足するものの、急性期は376床過剰、今後2030年まで増加が見込まれる回復期は1,873床、慢性期は984床不足
- ・ 豊能二次医療圏における病床機能報告数は計9,059床に対し、2025年の病床数の必要量（推計値）は計11,478床で、高度急性期、急性期ともに、必要量はそれぞれ310床、28床過剰、今後2030年まで増加が見込まれる回復期は2,511床、慢性期は246床不足

図表-1-1-4 三島二次医療圏の病床機能報告と病床数の必要量推計値の比較



図表-1-1-5 豊能二次医療圏の病床機能報告と病床数の必要量推計値の比較



※出典 病床機能報告：大阪府地域医療構想 平成29(2017)年7月1日時点(平成30(2018))年6月15日)
 病床数の必要量：第7次大阪府医療計画第9章第2節 図表9-2-12 病床機能ごとの病床数の必要量の見込み(平成25(2013)年の性・年齢階級別の医療機能別の入院受療率に同年の社人研の将来の性・年齢階級別の推計人口を乗じ、それに国が指定する医療機能ごとの病床稼働率を除いて算出)

2. 三島・豊能二次医療圏の将来医療需要

(1) 入院患者

①入院患者数の推計

[三島二次医療圏]

・高槻市は2030年、摂津市は2025年に入院患者数のピークを迎えるが、本市は2045年まで増加する見込み

後期高齢者の患者数は、高槻市、摂津市、島本町は2030年頃にピークを迎えるが、本市は2045年まで増加する見込み

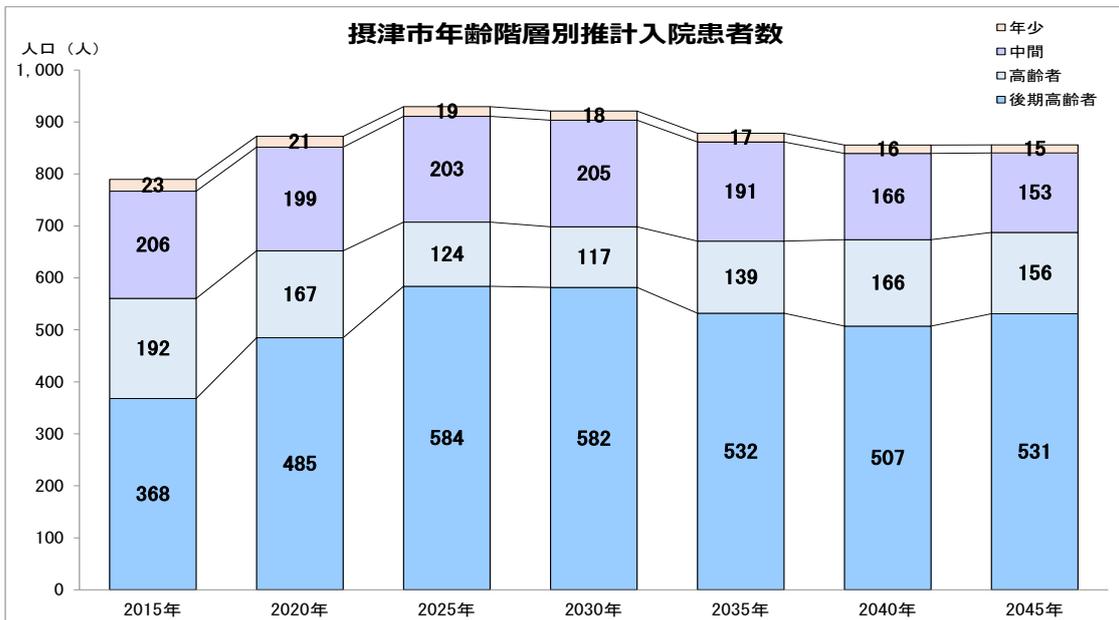
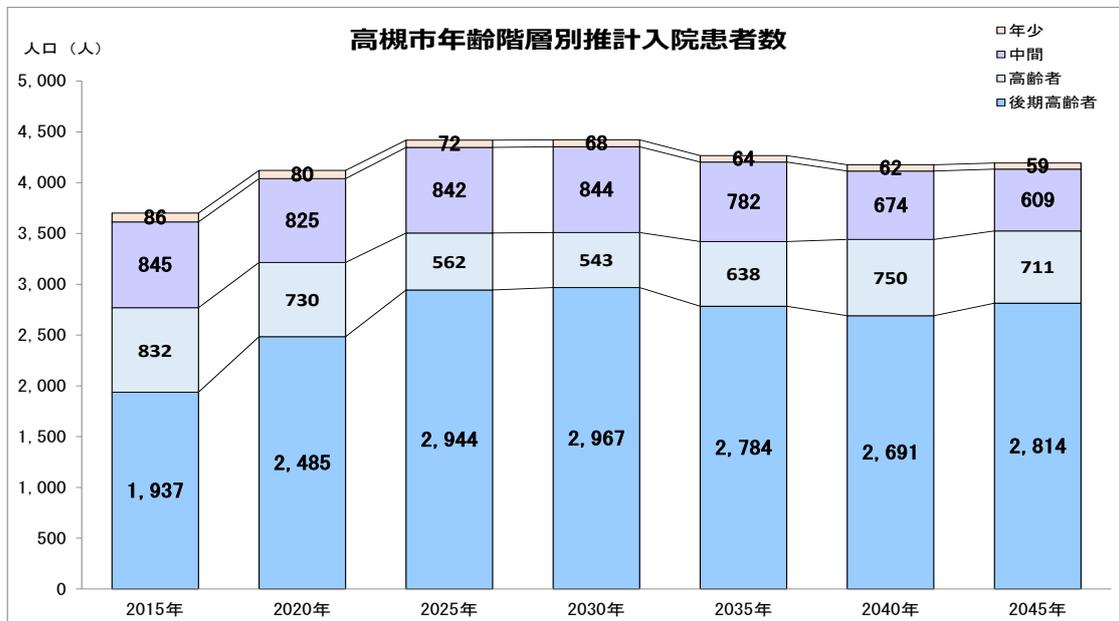
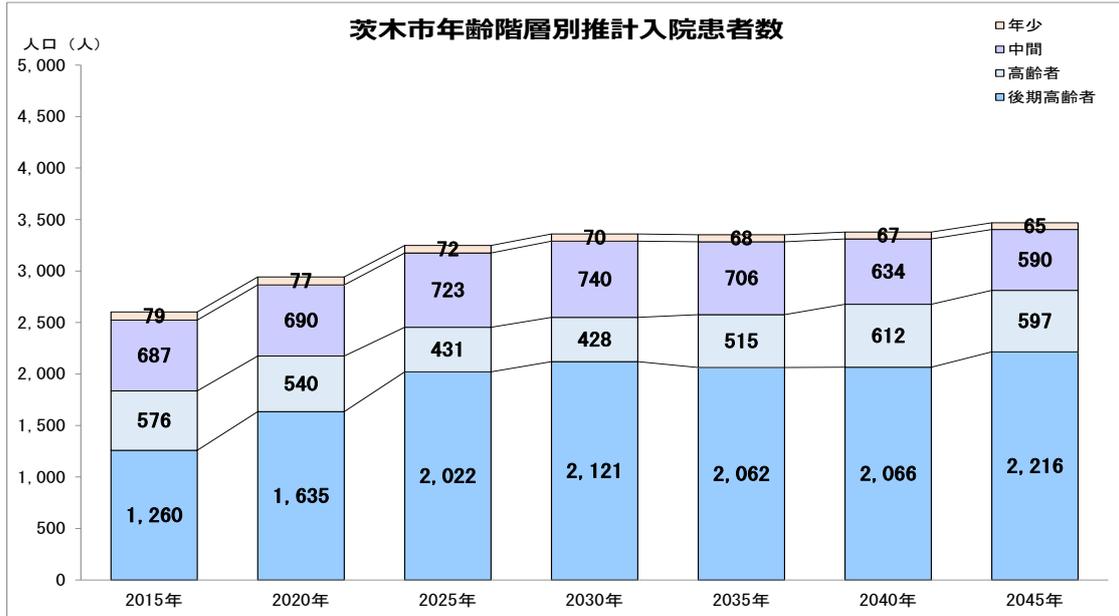
・各市町とも、入院患者数は人口が減少局面に入った後もしばらく増加し、ピークを迎えた後に減少傾向となることが予想される。

[豊能二次医療圏]

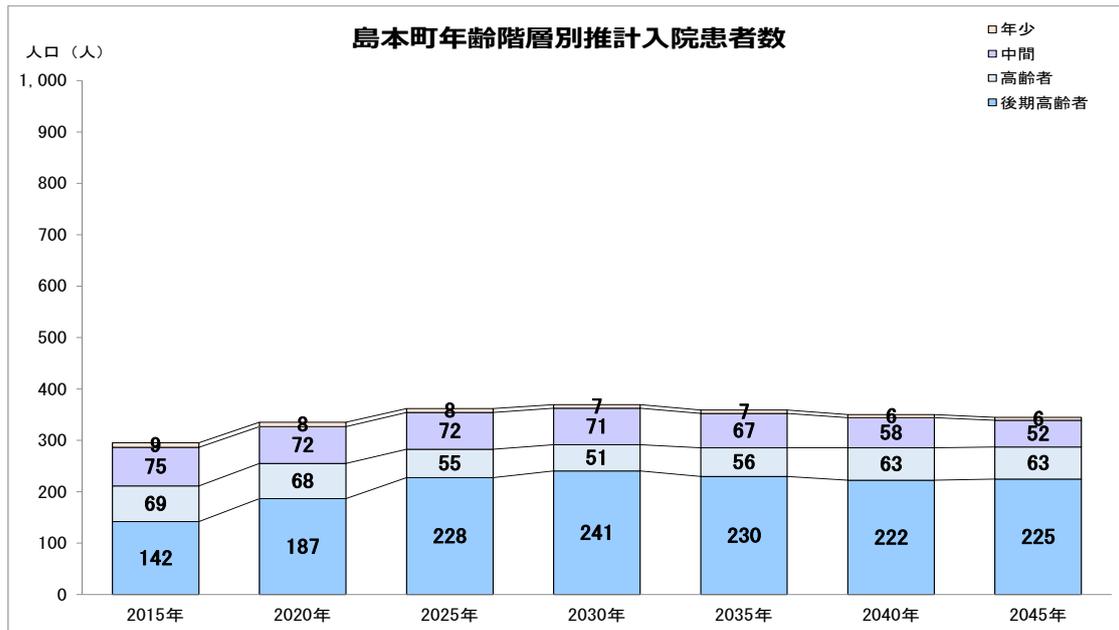
・吹田市と箕面市は本市と同様、2045年まで増加が見込まれ、特に後期高齢者の患者が非常に増加

・両市の人口は2030年よりも前にピークに達するが、入院患者数は2045年まで増加の見込み

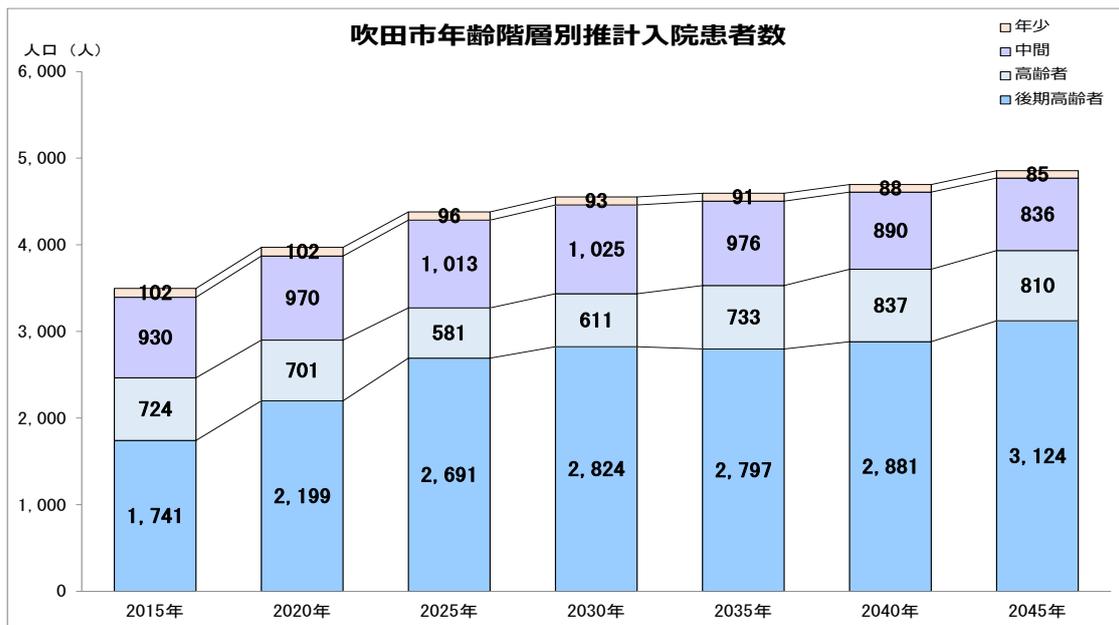
図表-1-2-1 三島二次医療圏の構成市町の入院患者推計



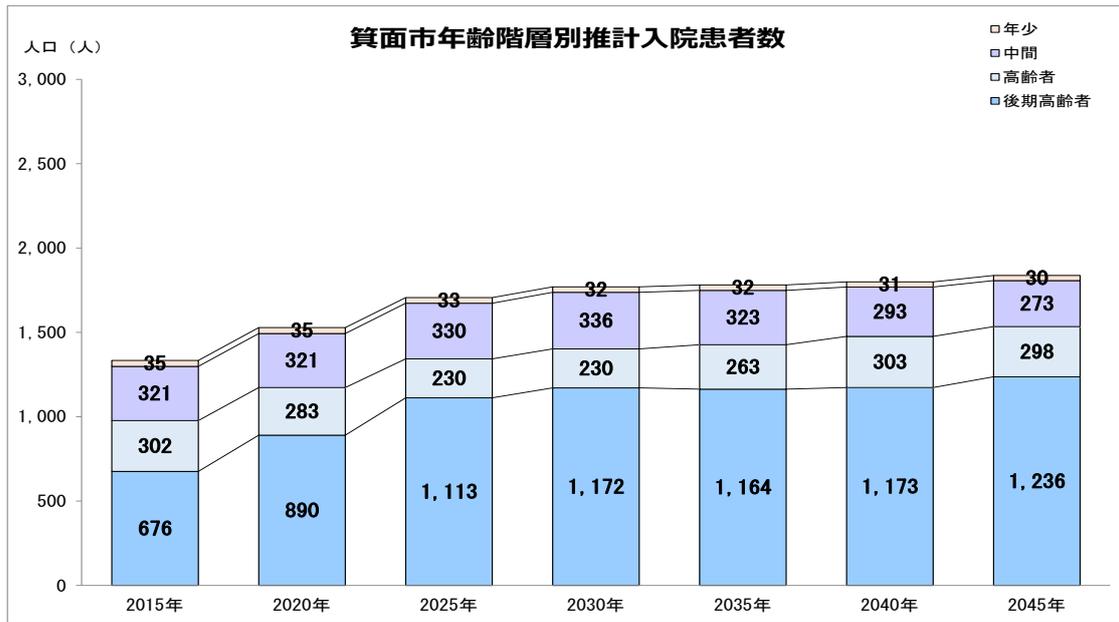
図表-1-2-1 三島二次医療圏の構成市町の入院患者推計（つづき）



図表-1-2-2 豊能二次医療圏の構成市町（うち、吹田市、箕面市）の入院患者推計



図表-1-2-2 豊能二次医療圏の構成市町（うち、吹田市、箕面市）の入院患者推計
(つづき)



※出典 推計人口：国立社会保障・人口問題研究所 2018年男女5歳階級別推計（大阪府）
 注）2015年は国勢調査による実績値
 注）国勢調査の参考表として公表されている「年齢・国籍不詳を案分した人口」を基礎人口として用いている。

受療率（人口10万対）：厚生労働省患者調査 平成26（2014）年 性・年齢階級×傷病大分類×入院外来・都道府県別（入院）／（外来）
 注）受療率（延患者数）（人口10万人対）計算式

$$\frac{\text{推計患者数（一日当たり。千人単位）}}{\text{推計人口}} \times 100,000 \text{人}$$
 注）推計患者数：調査日当日に病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数

②今後30年間における1日当たりの疾患別入院患者数の推移（推計）

[三島二次医療圏]	
・	構成市町での入院患者は2015年から10年間で21.3%、20年間及び30年間で19.9%増加。特に『循環器系の疾患』『呼吸器系の疾患』の患者が2035年には減少するものの2045年には増加する見込み
・	救急に直結する『損傷、中毒及びその他の外因の影響』の患者は、20年後の時点で若干減少するものの、30年間で27.8%増加する見込み
・	高齢者に特有といわれる疾患が今後増加する見込みであり、損傷系（骨折等）の患者も大幅に減少しないと考えられることから、救急での入院患者数は今後も増加する可能性が高い。
[豊能二次医療圏]	
・	入院患者は2015年から10年間で22.1%、20年間で25.1%、30年間で29.2%増加する見込み
・	三島二次医療圏と同様に、特に『循環器系の疾患』『呼吸器系の疾患』の患者が顕著に増加
・	救急に直結する『損傷、中毒及びその他の外因の影響』の患者についても増加の一途をたどり、30年間で37.1%増加する見込み
・	三島二次医療圏と同様に、高齢者に特有といわれる疾患が今後増加する見込みであり、損傷系（骨折等）の患者も増加の一途を辿ることから、救急での入院患者数についても今後も増える可能性が高い。

図表-1-2-3 三島二次医療圏における1日当たりの疾患別入院患者数推計

三島二次医療圏疾患別入院患者数推計	2015年	2025年	2035年	2045年	(人)		
					2025年 対2015年 変化率	2035年 対2015年 変化率	2045年 対2015年 変化率
I 感染症及び寄生虫症	151.4	182.9	181.3	180.3	20.8%	19.7%	19.1%
II 新生物	876.1	982.6	991.6	989.8	12.2%	13.2%	13.0%
うち 悪性新生物	778.6	875.9	888.6	887.2	12.5%	14.1%	13.9%
うち 良性新生物及びその他の新生物	96.9	106.6	103.0	102.1	10.0%	6.3%	5.3%
III 血液及び血管系の疾患並びに免疫機構の障害	37.7	48.1	46.6	47.6	27.5%	23.6%	26.3%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	240.4	296.9	294.6	297.4	23.5%	22.5%	23.7%
うち 糖尿病	158.9	190.0	189.9	191.6	19.5%	19.5%	20.6%
V 精神及び行動の障害	1,277.1	1,376.7	1,348.5	1,294.0	7.8%	5.6%	1.3%
VI 神経系の疾患	537.6	685.5	674.9	680.7	27.5%	25.5%	26.6%
VII 眼及び付属器の疾患	79.4	91.4	92.3	93.3	15.2%	16.4%	17.5%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	14.8	15.3	15.5	15.3	3.4%	4.7%	3.2%
IX 循環器系の疾患	1,356.5	1,771.5	1,759.0	1,789.9	30.6%	29.7%	32.0%
うち 高血圧性疾患	31.5	43.7	43.4	44.5	38.9%	37.9%	41.4%
うち 心疾患（高血圧性のものを除く）	364.7	484.7	480.7	490.0	32.9%	31.8%	34.4%
うち 脳血管疾患	873.3	1,137.3	1,129.9	1,148.7	30.2%	29.4%	31.5%
X 呼吸器系の疾患	506.2	681.8	670.1	684.1	34.7%	32.4%	35.2%
うち 肺炎	179.7	248.2	244.7	250.9	38.1%	36.2%	39.7%
うち 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	53.6	76.9	75.9	77.8	43.5%	41.6%	45.1%
XI 消化器系の疾患	401.5	477.6	471.8	473.6	19.0%	17.5%	17.9%
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	66.1	81.8	80.5	80.9	23.9%	21.8%	22.4%
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	436.4	549.5	547.4	552.2	25.9%	25.4%	26.5%
うち 脊柱障害	155.3	193.7	193.1	195.0	24.8%	24.4%	25.6%
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	268.3	333.4	330.2	334.4	24.3%	23.1%	24.6%
XV 妊娠、分娩及び産じょく	104.2	87.8	83.5	76.2	-15.7%	-19.9%	-26.9%
XVI 周産期に発生した病態	44.2	37.9	35.7	33.1	-14.2%	-19.2%	-25.2%
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	28.7	26.2	24.4	22.9	-9.0%	-15.0%	-20.3%
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	105.7	140.2	137.7	139.0	32.6%	30.3%	31.5%
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	778.0	1,005.5	985.8	994.2	29.2%	26.7%	27.8%
うち 骨折	550.7	739.3	724.2	734.6	34.3%	31.5%	33.4%
うち その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	226.2	265.4	260.7	258.6	17.3%	15.2%	14.3%
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	83.3	92.1	90.4	89.0	10.6%	8.6%	6.9%
合計	7,393.7	8,964.8	8,861.8	8,867.8	21.3%	19.9%	19.9%

図表-1-2-4 豊能二次医療圏における1日当たりの疾患別入院患者数推計

豊能二次医療圏疾患別入院患者数推計	(人)						
	2015年	2025年	2035年	2045年	2025年 対2015年 変化率	2035年 対2015年 変化率	2045年 対2015年 変化率
I 感染症及び寄生虫症	210.6	256.1	262.9	270.1	21.6%	24.9%	28.3%
II 新生物	1,204.9	1,380.9	1,440.7	1,474.4	14.6%	19.6%	22.4%
うち 悪性新生物	1,069.9	1,230.4	1,290.0	1,321.1	15.0%	20.6%	23.5%
うち 良性新生物及びその他の新生物	134.3	150.4	150.6	152.7	12.0%	12.1%	13.8%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	52.7	67.0	67.9	71.6	27.2%	28.8%	35.8%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	333.8	414.4	427.0	444.8	24.2%	27.9%	33.3%
うち 糖尿病	219.7	265.6	275.4	285.8	20.9%	25.3%	30.1%
V 精神及び行動の障害	1,768.8	1,951.3	1,969.1	1,941.4	10.3%	11.3%	9.8%
VI 神経系の疾患	749.3	955.6	976.9	1,020.5	27.5%	30.4%	36.2%
VII 眼及び付属器の疾患	109.2	128.2	134.1	139.0	17.4%	22.8%	27.3%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	20.3	21.8	22.7	22.9	7.7%	11.7%	12.8%
IX 循環器系の疾患	1,889.2	2,460.8	2,540.8	2,677.4	30.3%	34.5%	41.7%
うち 高血圧性疾患	44.0	60.5	62.5	66.6	37.3%	42.0%	51.3%
うち 心疾患（高血圧性のものを除く）	508.7	672.5	693.7	733.2	32.2%	36.4%	44.1%
うち 脳血管疾患	1,216.0	1,580.3	1,632.1	1,718.2	30.0%	34.2%	41.3%
X 呼吸器系の疾患	708.9	946.0	968.4	1,026.3	33.4%	36.6%	44.8%
うち 肺炎	251.7	343.5	352.9	376.1	36.5%	40.2%	49.4%
うち 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	75.3	106.2	109.2	116.6	41.1%	45.0%	54.9%
X I 消化器系の疾患	556.6	668.8	685.5	708.3	20.2%	23.2%	27.3%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	92.0	114.4	116.7	121.3	24.3%	26.8%	31.7%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	606.3	766.0	791.4	826.0	26.3%	30.5%	36.2%
うち 脊柱障害	215.4	270.1	279.3	291.4	25.4%	29.7%	35.3%
X IV 腎尿路生殖系系の疾患	372.6	464.9	478.3	499.9	24.7%	28.4%	34.2%
X V 妊娠、分娩及び産じょく	142.7	126.4	119.6	111.9	-11.4%	-16.2%	-21.6%
X VI 周産期に発生した病態	62.3	55.7	54.3	51.0	-10.6%	-12.8%	-18.1%
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	40.2	38.2	37.0	35.3	-4.8%	-7.9%	-12.2%
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	148.1	195.0	199.0	208.7	31.7%	34.4%	41.0%
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,088.1	1,400.0	1,427.5	1,491.7	28.7%	31.2%	37.1%
うち 骨折	772.0	1,026.3	1,046.8	1,102.5	32.9%	35.6%	42.8%
うち その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	314.6	372.6	379.4	387.8	18.4%	20.6%	23.3%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	115.3	129.6	131.1	132.9	12.5%	13.7%	15.3%
合計	10,271.7	12,541.3	12,851.1	13,275.5	22.1%	25.1%	29.2%

※出典 推計人口：国立社会保障・人口問題研究所 2018年男女5歳階級別推計（大阪府）
 受療率（人口10万対）：厚生労働省患者調査 平成26（2014）年 性・年齢階級×傷病
 大分類×入院外来・都道府県別（入院）／（外来）

※当該図表は、推計人口と受療率により算出

③20年後（2035年対2015（平成27）年）の疾患別入院患者数の変化率の増減（推計）

〔三島二次医療圏〕

- ・『循環器系の疾患』は患者も多く、また伸び率も29.7%と高い。
- ・妊娠、分娩及び産じょく』『周産期に発生した病態』『先天奇形、変形及び染色体異常』といった周産期系及び小児系の疾患は、少子高齢化により減少する見込み
- ・三島二次医療圏全体の入院患者数は増加が見込まれるものの、疾患別で見ると、高齢者に多い疾患において患者数が増える見込み
- ・今後、1日当たりの患者数が多く、増加が見込まれる疾患においては、特に医療圏全体として対策が必要であると考えられる。

〔豊能二次医療圏〕

- ・三島二次医療圏と同様に『循環器系の疾患』の患者が多く、また変化率も34.5%と高い。
- ・『妊娠、分娩及び産じょく』『周産期に発生した病態』『先天奇形、変形及び染色体異常』といった周産期系及び小児系の疾患については少子高齢化により減少する見込み
- ・豊能二次医療圏についても、圏域全体の入院患者数は増加が見込まれるものの、疾患ごとに見ると、高齢者に多い疾患において患者数が増える見込みとなっている。

図表-1-2-5 二次医療圏の入院患者の疾患別変化率（2015（平成27）年→2035年）

三島二次医療圏 2035年対2015年 変化率	推計初 年度患 者数	変化率	豊能二次医療圏 2035年対2015年 変化率	推計初 年度患 者数	変化率
1 感染症	151	19.7%	1 感染症	211	24.9%
2 新生物	876	13.2%	2 新生物	1,205	19.6%
3 血液及び造血器の疾患	38	26.3%	3 血液及び造血器の疾患	53	28.8%
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	240	22.5%	4 内分泌、栄養及び代謝疾患	334	33.3%
5 精神及び行動の障害	1,277	5.6%	5 精神及び行動の障害	1,769	11.3%
6 神経系の疾患	538	25.5%	6 神経系の疾患	749	36.2%
7 眼及び付属器の疾患	79	16.4%	7 眼及び付属器の疾患	109	22.8%
8 耳及び乳様突起の疾患	15	4.7%	8 耳及び乳様突起の疾患	20	11.7%
9 循環器系の疾患	1,356	29.7%	9 循環器系の疾患	1,889	34.5%
10 呼吸器系の疾患	506	32.4%	10 呼吸器系の疾患	709	36.6%
11 消化器系の疾患	402	17.5%	11 消化器系の疾患	557	23.2%
12 皮膚及び皮下組織の疾患	66	21.8%	12 皮膚及び皮下組織の疾患	92	26.8%
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	436	25.4%	13 筋骨格系及び結合組織の疾患	606	30.5%
14 腎尿路生殖器系の疾患	268	23.1%	14 腎尿路生殖器系の疾患	373	28.4%
15 妊娠、分娩及び産じょく	104	-19.9%	15 妊娠、分娩及び産じょく	143	-16.2%
16 周産期に発生した病態	44	-19.2%	16 周産期に発生した病態	62	-12.8%
17 先天奇形、変形及び染色体異常	29	-15%	17 先天奇形、変形及び染色体異常	40	-7.9%
18 その他	106	30.3%	18 その他	148	34.4%
19 損傷、中毒	778	26.7%	19 損傷、中毒	1,088	31.2%
21 保健サービスの利用	83	8.6%	21 保健サービスの利用	115	13.7%

※図表-1-2-3、1-2-4をもとに作成

（２）外来患者

①外来患者数の推計

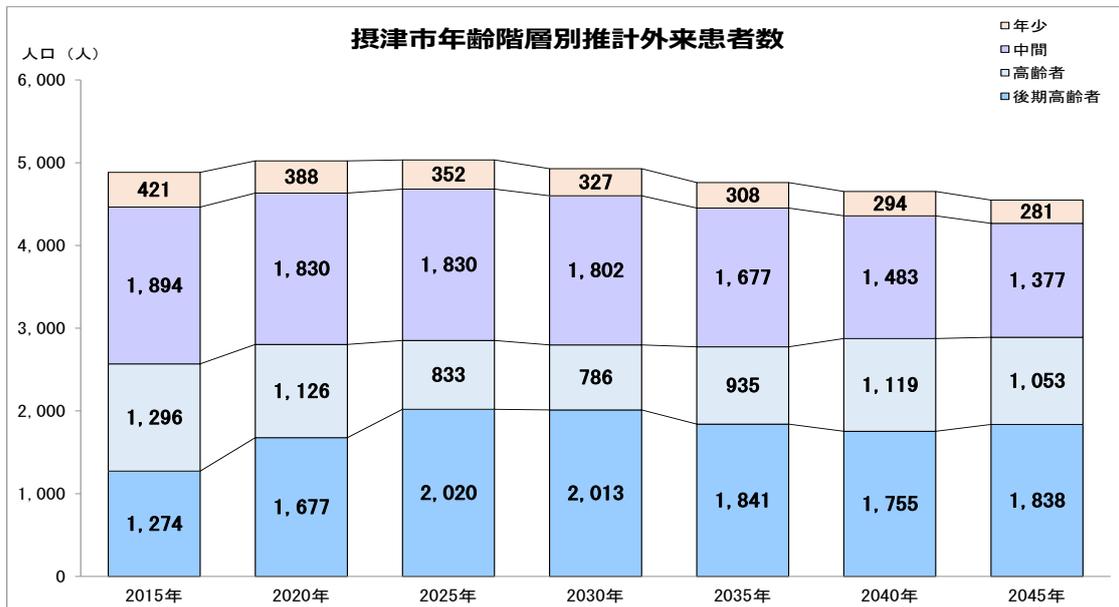
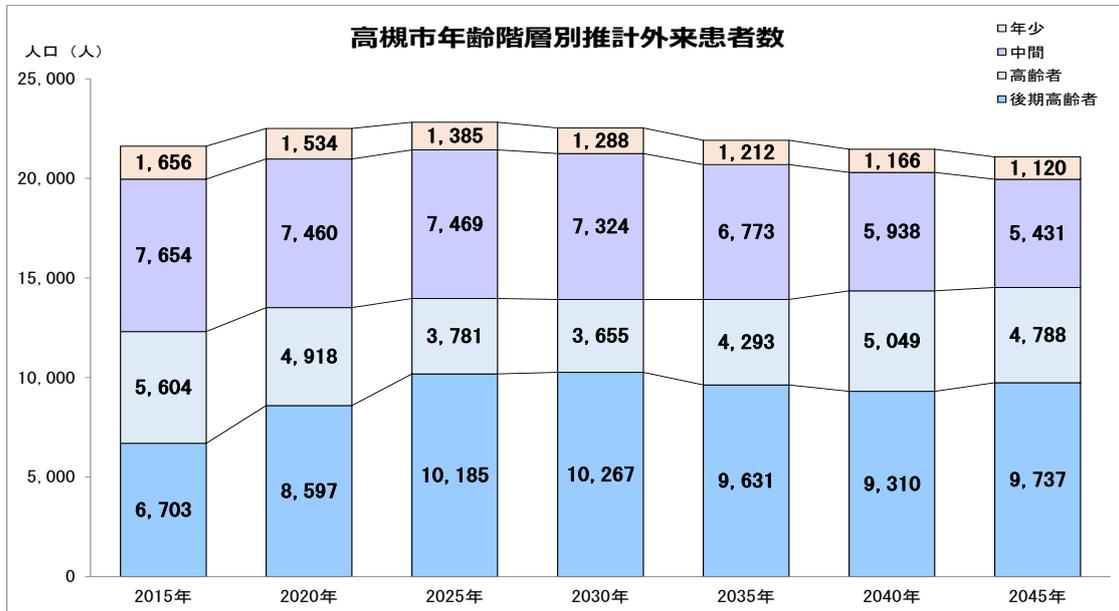
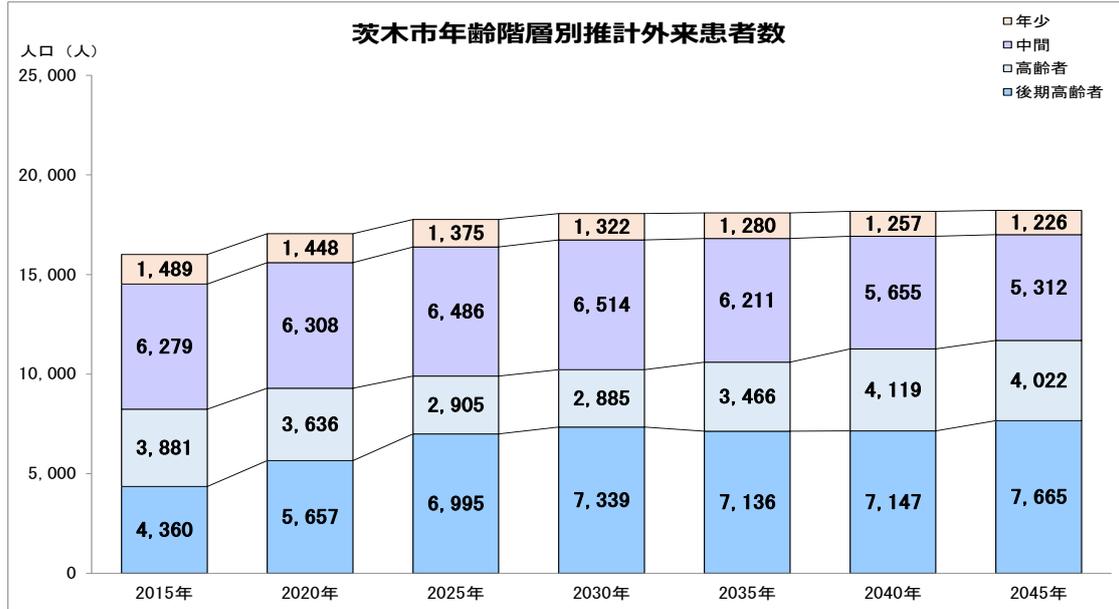
[三島二次医療圏]

- ・高槻市と摂津市では入院患者数よりも早く、2025年に最大となる見込み
- ・島本町は入院患者数と同じく2030年に最大に、本市は2045年まで増加する見込み

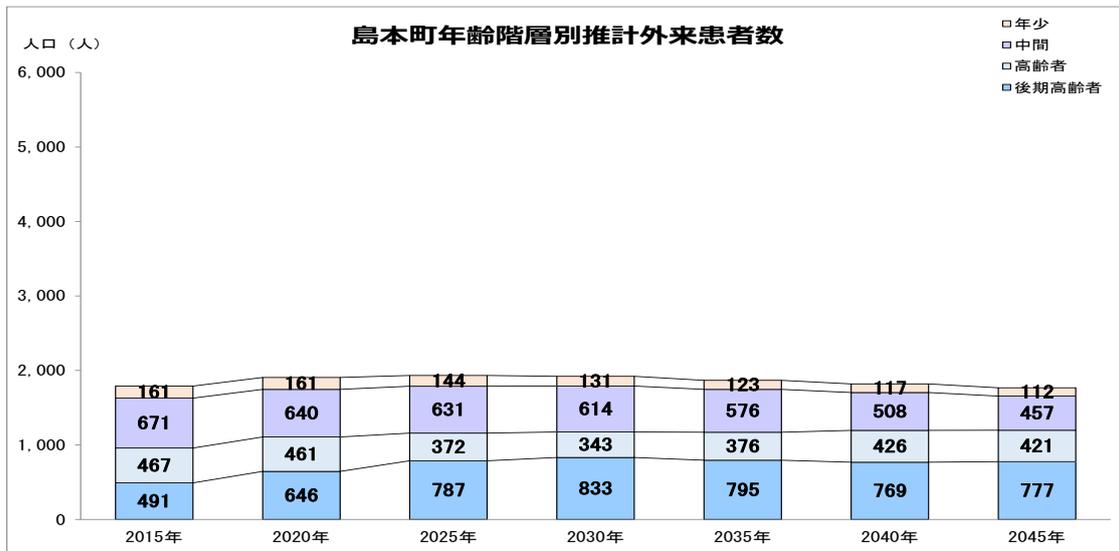
[豊能二次医療圏]

- ・吹田市と箕面市では三島二次医療圏における本市と同様、全体的に2030年以降も緩やかに増えていく見込み

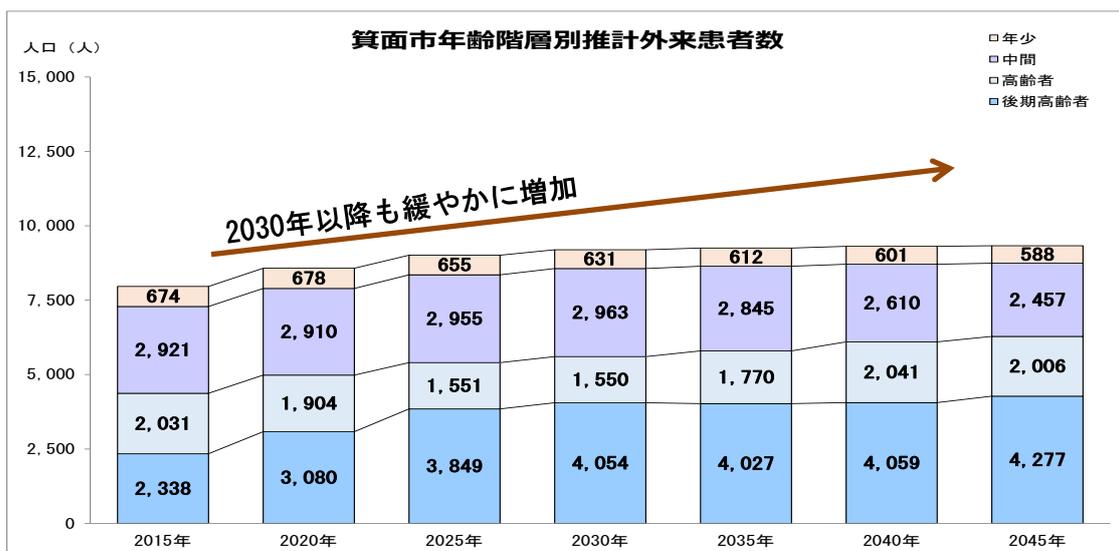
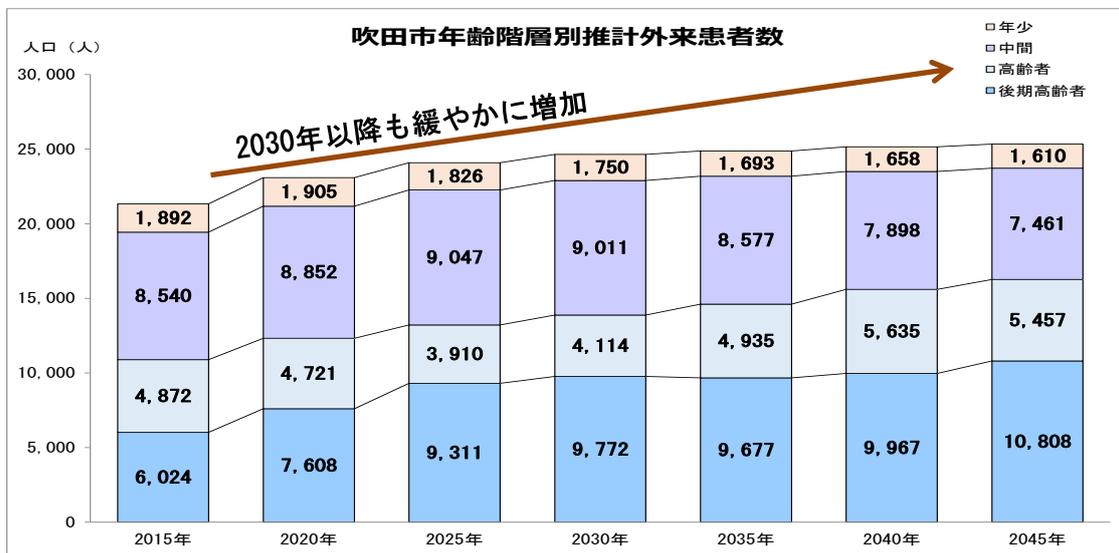
図表-1-2-6 三島二次医療圏の構成市町の外来患者推計



I 本市を取り巻く二次医療圏の医療提供体制の現状整理



図表-1-2-7 吹田市、箕面市の外来患者推計



※出典 推計人口：国立社会保障・人口問題研究所 2018年男女5歳階級別推計（大阪府）
 受療率（人口10万対）：厚生労働省患者調査 平成26（2014）年 性・年齢階級×傷病
 大分類×入院外来・都道府県別（入院）／（外来）

※当該図表は、推計人口と受療率により算出

②今後30年間に於ける1日当たりの疾患別外来患者数の推移（推計）

〔三島二次医療圏〕	
・入院に比べると2015年から2045年までの患者数全体の増加割合は緩やかであり、構成市町での疾患別外来患者の合計は、2025年をピークに減少に転じる見込み。	
・入院同様、『循環器系の疾患』の患者の増加が見込まれており、30年間で18.6%増加する見込み	
・その他、変化率が高くなっているのは、呼吸器系疾患のうち『気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患』で23.2%、筋骨格系及び結合組織の疾患のうち『脊柱障害』で15.2%	
〔豊能二次医療圏〕	
・入院に比べると2015年から2045年までの患者数全体の増加割合は比較的緩やか	
・疾患別外来患者は10年間で10%、20年間で11.5%、30年間で11.7%と微増していく見込み	
・入院同様、『循環器系の疾患』の患者の増加が見込まれており、30年間で28.2%増加する見込み	
・その他、呼吸器系疾患のうち『気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患』で32.9%、筋骨格系及び結合組織の疾患のうち『脊柱障害』で24.5%と高い	

図表-1-2-8 三島二次医療圏の1日当たりの疾患別外来患者数推計

三島二次医療圏疾患別外来患者数推計	(人)							
	2015年	2025年	2035年	2045年	2025年 対2015年 変化率	2035年 対2015年 変化率	2045年 対2015年 変化率	
I 感染症及び寄生虫症	1,091.0	1,127.8	1,079.8	1,062.0	3.4%	-1.0%	-2.7%	
II 新生物	1,524.9	1,627.6	1,609.9	1,589.1	6.7%	5.6%	4.2%	
うち 悪性新生物	1,150.7	1,263.6	1,262.8	1,255.7	9.8%	9.7%	9.1%	
うち 良性新生物及びその他の新生物	373.8	363.3	346.3	332.9	-2.8%	-7.3%	-10.9%	
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	137.6	131.8	122.6	117.5	-4.2%	-10.9%	-14.6%	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2,920.0	3,136.8	3,122.6	3,052.7	7.4%	6.9%	4.5%	
うち 糖尿病	1,393.0	1,531.4	1,529.0	1,512.9	9.9%	9.8%	8.6%	
V 精神及び行動の障害	1,390.0	1,376.1	1,292.4	1,189.7	-1.0%	-7.0%	-14.4%	
VI 神経系の疾患	906.1	1,049.9	1,013.0	985.1	15.9%	11.8%	8.7%	
VII 眼及び付属器の疾患	2,618.1	2,769.4	2,718.9	2,686.7	5.8%	3.9%	2.6%	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	684.2	704.7	680.7	664.4	3.0%	-0.5%	-2.9%	
IX 循環器系の疾患	5,874.2	6,896.3	6,953.6	6,968.0	17.4%	18.4%	18.6%	
うち 高血圧性疾患	4,325.6	5,018.8	5,081.9	5,071.6	16.0%	17.5%	17.2%	
うち 心疾患（高血圧性のものを除く）	846.8	1,050.2	1,043.7	1,056.0	24.0%	23.3%	24.7%	
うち 脳血管疾患	556.4	670.0	671.2	685.7	20.4%	20.6%	23.2%	
X 呼吸器系の疾患	3,244.4	3,184.2	3,024.9	2,894.2	-1.9%	-6.8%	-10.8%	
うち 肺炎	34.1	35.4	34.8	34.3	3.8%	2.1%	0.6%	
うち 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	223.0	268.1	269.0	274.8	20.2%	20.6%	23.2%	
XI 消化器系の疾患	9,198.6	9,843.8	9,582.0	9,291.6	7.0%	4.2%	1.0%	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	1,743.3	1,772.0	1,700.2	1,623.3	1.6%	-2.5%	-6.9%	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,519.0	6,447.4	6,438.6	6,446.9	16.8%	16.7%	16.8%	
うち 脊柱障害	3,150.6	3,642.0	3,643.7	3,630.2	15.6%	15.6%	15.2%	
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	1,440.3	1,482.2	1,451.6	1,410.4	2.9%	0.8%	-2.1%	
XV 妊娠、分娩及び産じょく	123.0	104.4	100.3	91.5	-15.1%	-18.5%	-25.7%	
XVI 周産期に発生した病態	9.7	8.3	7.8	7.2	-14.2%	-19.2%	-25.2%	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	60.0	57.2	54.7	52.2	-4.7%	-8.8%	-13.0%	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	387.7	410.1	398.9	386.3	5.8%	2.9%	-0.4%	
IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,669.6	1,729.1	1,646.1	1,562.8	3.6%	-1.4%	-6.4%	
うち 骨折	622.3	720.5	705.7	681.8	15.8%	13.4%	9.6%	
うち その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,046.0	1,008.2	939.5	880.0	-3.6%	-10.2%	-15.9%	
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3,762.3	3,688.6	3,632.0	3,537.9	-2.0%	-3.5%	-6.0%	
合計	44,304.1	47,547.8	46,630.7	45,619.5	7.3%	5.3%	3.0%	

※出典 推計人口：国立社会保障・人口問題研究所 2018年男女5歳階級別推計（大阪府）
 受療率（人口10万対）：厚生労働省患者調査 平成26（2014）年 性・年齢階級×傷病
 大分類×入院外来・都道府県別（入院）／（外来）

※当該図表は、推計人口と受療率により算出

※「豊能二次医療圏（全体）における1日当たりの疾患別外来患者数推計」についても同様

図表-1-2-9 豊能二次医療圏（全体）の1日当たりの疾患別外来患者数推計

(人)

豊能二次医療圏疾患別外来患者数推計	2015年	2025年	2035年	2045年	2025年 対2015年 変化率	2035年 対2015年 変化率	2045年 対2015年 変化率
I 感染症及び寄生虫症	1,507.9	1,606.2	1,597.1	1,601.0	6.5%	5.9%	6.2%
II 新生物	2,100.8	2,299.4	2,352.8	2,371.2	9.5%	12.0%	12.9%
うち 悪性新生物	1,583.8	1,778.9	1,840.8	1,871.7	12.3%	16.2%	18.2%
うち 良性新生物及びその他の新生物	516.3	519.4	510.9	498.8	0.6%	-1.0%	-3.4%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	190.0	188.9	180.9	175.9	-0.6%	-4.8%	-7.5%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	4,021.2	4,436.5	4,556.1	4,562.6	10.3%	13.3%	13.5%
うち 糖尿病	1,919.3	2,157.1	2,229.5	2,257.3	12.4%	16.2%	17.6%
V 精神及び行動の障害	1,932.8	1,977.4	1,904.9	1,800.5	2.3%	-1.4%	-6.8%
VI 神経系の疾患	1,265.2	1,479.9	1,480.3	1,486.3	17.0%	17.0%	17.5%
VII 眼及び付属器の疾患	3,610.3	3,919.2	3,985.6	4,020.9	8.6%	10.4%	11.4%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	946.9	1,005.9	1,005.7	1,003.3	6.2%	6.2%	6.0%
IX 循環器系の疾患	8,104.0	9,656.4	10,081.0	10,392.4	19.2%	24.4%	28.2%
うち 高血圧性疾患	5,960.4	7,035.9	7,367.3	7,562.1	18.0%	23.6%	26.9%
うち 心疾患（高血圧性のものを除く）	1,175.1	1,464.4	1,511.7	1,578.2	24.6%	28.6%	34.3%
うち 脳血管疾患	768.1	934.2	973.1	1,021.2	21.6%	26.7%	32.9%
X 呼吸器系の疾患	4,495.9	4,584.5	4,496.8	4,397.5	2.0%	0.0%	-2.2%
うち 肺炎	47.2	50.3	51.1	51.5	6.5%	8.3%	8.9%
うち 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	308.1	374.1	389.7	409.3	21.4%	26.5%	32.9%
XI 消化器系の疾患	12,723.8	13,966.7	14,031.3	13,956.7	9.8%	10.3%	9.7%
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	2,420.4	2,528.6	2,508.8	2,449.7	4.5%	3.7%	1.2%
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	7,627.2	9,034.3	9,347.4	9,624.0	18.4%	22.6%	26.2%
うち 脊柱障害	4,352.0	5,109.7	5,289.6	5,419.4	17.4%	21.5%	24.5%
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	1,984.7	2,104.1	2,123.0	2,106.5	6.0%	7.0%	6.1%
XV 妊娠、分娩及び産じょく	167.5	149.3	141.3	132.7	-10.8%	-15.6%	-20.8%
XVI 周産期に発生した病態	13.6	12.2	11.9	11.2	-10.6%	-12.8%	-18.1%
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	83.3	82.6	81.5	79.2	-0.8%	-2.1%	-4.8%
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	537.2	582.4	584.5	580.6	8.4%	8.8%	8.1%
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,316.4	2,475.0	2,431.1	2,370.8	6.8%	5.0%	2.4%
うち 骨折	865.0	1,018.6	1,028.3	1,028.8	17.8%	18.9%	18.9%
うち その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,449.9	1,455.6	1,401.6	1,340.8	0.4%	-3.3%	-7.5%
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,170.4	5,254.0	5,328.3	5,280.8	1.6%	3.1%	2.1%
合計	61,219.5	67,343.3	68,230.2	68,403.9	10.0%	11.5%	11.7%

③20年後（2035年対2015（平成27）年）の疾患別外来患者数の変化率の増減（推計）

<p>[三島二次医療圏]</p> <ul style="list-style-type: none"> 『消化器系の疾患』が患者数は最も多い。 伸び率では『循環器系の疾患』の患者が18.4%と最も高い。 全体的な傾向として、高齢者がかかりやすい『循環器系の疾患』『筋骨格系及び結合組織の疾患』については外来患者数も一定割合伸びる傾向となっている。 <p>[豊能二次医療圏]</p> <ul style="list-style-type: none"> 『消化器系の疾患』が患者数では最も多い。 伸び率では『循環器系の疾患』の患者が24.4%と最も高い。 高齢者がかかりやすい『循環器系の疾患』『筋骨格系及び結合組織の疾患』については外来患者数についても、今後増加する傾向となっている。
--

図表-1-2-10 三島二次医療圏の外来患者の疾患別変化率（2015（平成27）年→2035年）

三島二次医療圏 2035年対2015年 変化率	推計初 年度患 者数	変化率	豊能二次医療圏 2035年対2015年 変化率	推計初 年度患 者数	変化率
1 感染症	1,091	-1%	1 感染症	1,508	5.9%
2 新生物	1,525	5.6%	2 新生物	2,101	12%
3 血液及び造血器の疾患	138	-10.9%	3 血液及び造血器の疾患	190	-4.8%
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	2,920	6.9%	4 内分泌、栄養及び代謝疾患	4,021	13.3%
5 精神及び行動の障害	1,390	-7%	5 精神及び行動の障害	1,933	-1.4%
6 神経系の疾患	906	11.8%	6 神経系の疾患	1,265	17%
7 眼及び付属器の疾患	2,618	3.9%	7 眼及び付属器の疾患	3,610	10.4%
8 耳及び乳様突起の疾患	684	-0.5%	8 耳及び乳様突起の疾患	947	6.2%
9 循環器系の疾患	5,874	18.4%	9 循環器系の疾患	8,104	24.4%
10 呼吸器系の疾患	3,244	-6.8%	10 呼吸器系の疾患	4,496	0%
11 消化器系の疾患	9,199	4.2%	11 消化器系の疾患	12,724	10.3%
12 皮膚及び皮下組織の疾患	1,743	-2.5%	12 皮膚及び皮下組織の疾患	2,420	3.7%
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,519	16.7%	13 筋骨格系及び結合組織の疾患	7,627	22.6%
14 腎尿路生殖器系の疾患	1,440	0.8%	14 腎尿路生殖器系の疾患	1,985	7%
15 妊娠、分娩及び産じょく	123	-18.5%	15 妊娠、分娩及び産じょく	167	-15.6%
16 周産期に発生した病態	10	-19.2%	16 周産期に発生した病態	14	-12.8%
17 先天奇形、変形及び染色体異常	60	-8.8%	17 先天奇形、変形及び染色体異常	83	-2.1%
18 その他	388	2.9%	18 その他	537	8.8%
19 損傷、中毒	1,670	-1.4%	19 損傷、中毒	2,316	5%
21 保健サービスの利用	3,762	-3.5%	21 保健サービスの利用	5,170	3.1%

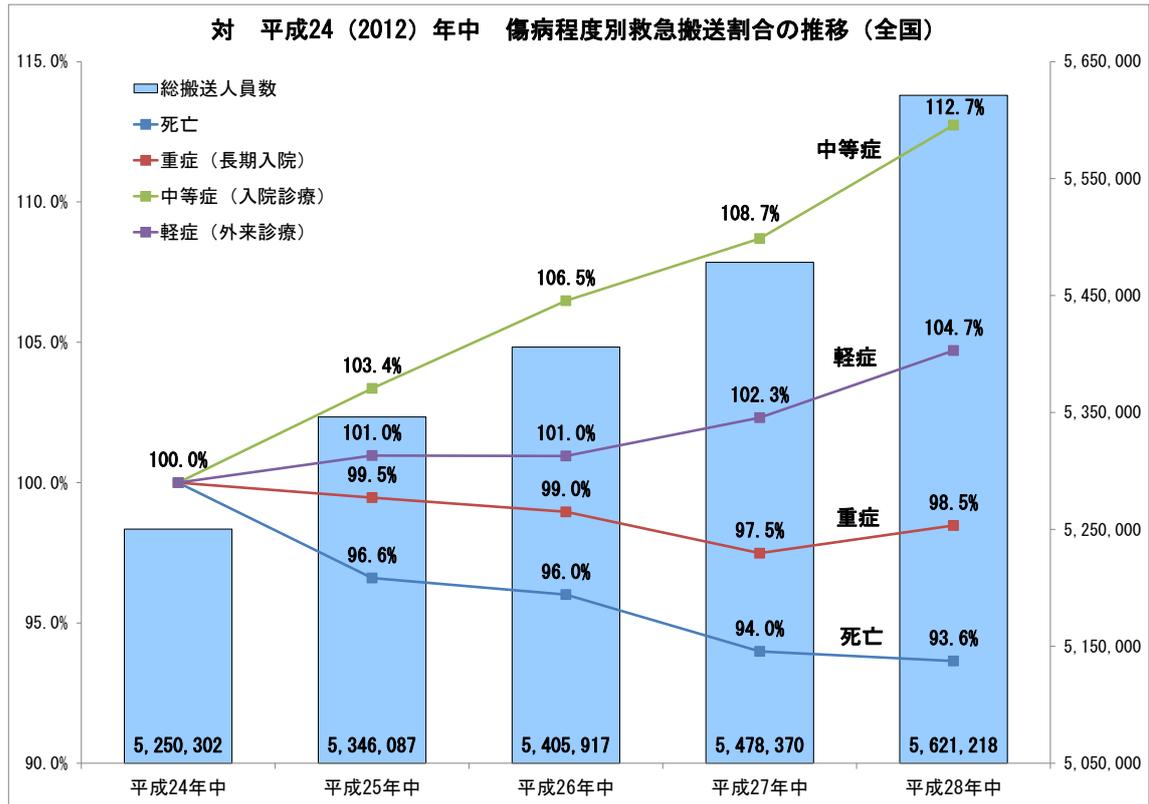
※図表-1-2-8、1-2-9をもとに作成

3. 三島二次医療圏の傷病程度別救急搬送割合の推移

(1) 傷病程度別救急搬送割合の推移

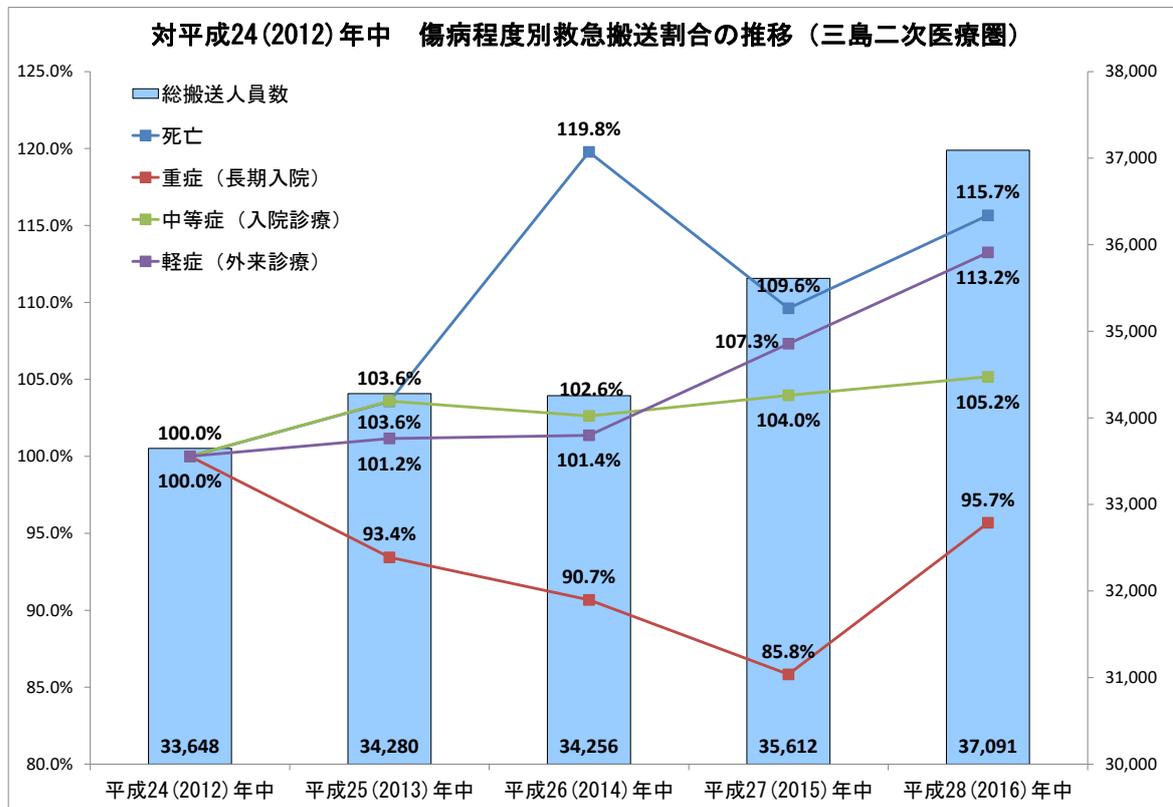
- ・救急搬送の総件数は全国と同様に年々増加傾向
- ・傷病程度別では、平成24（2012）年に対して軽症の救急搬送割合が平成28（2016）年で113.2%と、全国平均の104.7%に比べて高く、また死亡の救急搬送割合も平成28（2016）年で115.7%と、全国平均の93.6%に比べてかなり高い。
- ・中等症の救急搬送割合は平成28（2016）年で105.2%と、全国平均の同年112.7%に比べて低く、重症の救急搬送割合も平成27（2015）年までは減少傾向（93.4%⇒90.7%⇒85.8%）にあったが、平成28（2016）年で95.7%（全国平均98.5%）と増加
- ・軽症が平成26（2014）年以降、重症が平成27（2015）年以降急激に救急搬送割合が増加の一方、死亡については全国平均と比べて増加傾向で、逆に中等症については微増となるなど、全国平均と異なる傾向。これについては、入院につながりやすい65歳以上の高齢者人口が増加する傾向にあることから、65歳以上の高齢者の搬送の増加によるところも大きいと推察される。

図表-1-3-1 傷病程度別救急搬送割合の推移（全国）



出典：「平成24(2012)年から平成28(2016)年 救急救助の現況」(救急)(総務省)
第33表 傷病程度別の搬送人員数対前年比の推移

図表-1-3-2 傷病程度別救急搬送割合の推移（三島二次医療圏）



出典：構成市町の平成24(2012)年から平成28(2016)年の消防年報「傷病程度別搬送人員数」

(2) 事故種別救急搬送人員数の推移 (平成24 (2012) 年から5年間の推移)

① 三島二次医療圏の事故種別救急搬送人員数の推移

- ・対平成24 (2012) 年中の変化率は、本市においては平成26 (2014) 年、摂津市においては平成27 (2015) 年で減少となったものの、全体的な傾向として増加。特に平成28 (2016) 年の高槻市と島本町の増加率が本市、摂津市と比べて大きい。
- ・事故種別救急搬送人員数の上位3位は、急病、一般負傷、交通事故の順が多い。

図表-1-3-3 事故種別救急搬送人員数の推移 (三島二次医療圏 (3市1町))

※三島二次医療圏 (3市1町) 平成24 (2012) 年-平成28 (2016) 年消防年報 事故種別搬送人員数及び対平成24年変化率・対前年増減数

搬送人員 (人)		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計	対H24年変化率	対前年増減数
高槻市	平成24年	19	0	1	1,660	105	119	2,472	89	130	10,345	1,434	14,940		
	平成25年	9	0	0	1,691	141	107	2,422	102	150	10,564	1,583	15,186	101.6%	246
	平成26年	11	0	2	1,562	123	111	2,472	88	141	10,783	1,518	15,293	102.4%	107
	平成27年	11	0	0	1,471	123	118	2,621	88	97	11,205	1,686	15,734	105.3%	441
	平成28年	16	0	1	1,548	139	132	2,796	80	127	12,027	1,678	16,866	112.9%	1,132
茨木市	平成24年	13	0	3	1,632	151	90	1,854	89	99	7,563	798	11,494		
	平成25年	11	1	1	1,565	137	102	1,898	83	76	7,658	848	11,532	100.3%	38
	平成26年	10	1	1	1,464	110	98	1,969	61	90	7,497	861	11,301	98.3%	-231
	平成27年	3	0	1	1,506	126	114	1,982	76	83	8,112	959	12,003	104.4%	702
	平成28年	13	0	0	1,428	129	100	2,069	67	88	8,264	1,005	12,156	105.8%	155
摂津市	平成24年	4	0	0	584	90	45	568	25	17	2,389	279	3,722		
	平成25年	2	0	0	534	77	39	607	18	12	2,483	321	3,772	101.3%	50
	平成26年	0	0	1	603	90	40	621	23	14	2,480	306	3,872	104.0%	100
	平成27年	2	0	0	516	98	48	577	15	21	2,511	319	3,788	101.8%	-84
	平成28年	1	0	0	471	97	63	595	13	10	2,668	292	3,918	105.3%	130
島本町	平成24年	0	1	0	75	4	14	154	2	9	659	65	918		
	平成25年	0	0	0	73	9	9	174	7	12	681	73	965	105.1%	47
	平成26年	0	0	0	83	5	8	200	5	13	701	91	1,015	110.6%	50
	平成27年	0	0	0	82	8	6	188	5	10	760	64	1,059	115.4%	44
	平成28年	0	0	0	50	5	13	215	3	6	816	66	1,108	120.7%	49

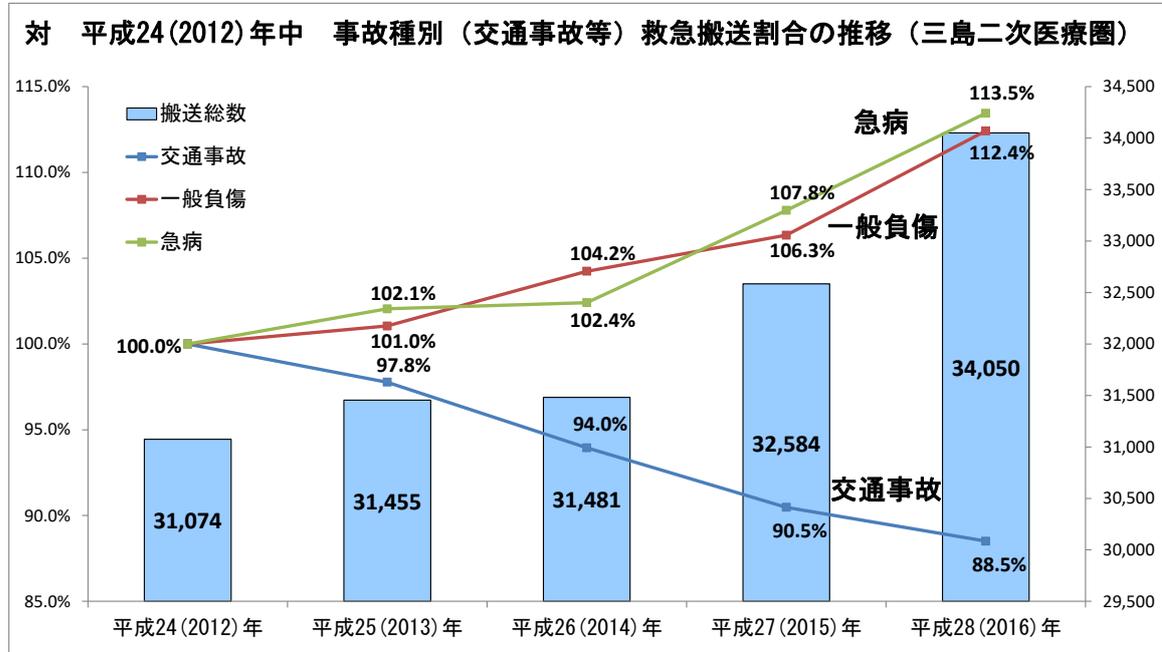
※合計はその他 (転院搬送、医師搬送、資器材搬送、その他) を除く。

出典：構成市町の平成24 (2012) 年から平成28 (2016) 年の消防年報「事故種別搬送人員数」

② 三島二次医療圏の事故種別（交通事故等）救急搬送割合の推移

・対平成24（2012）年中の変化率は、急病、一般負傷による搬送割合が増加となっている一方、交通事故による搬送割合は年々減少し続けている。

図表-1-3-4 事故種別（交通事故等）救急搬送割合の推移（三島二次医療圏）



出典：構成市町の平成24（2012）年から平成28（2016）年の消防年報「事故種別搬送人員数」

4. 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の医療提供体制の概況

(1) 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の病院配置状況

① 病院数

[二次医療圏内の病院総数]

- ・三島二次医療圏の病院数の合計は38施設。そのうち、本市の病院は平成30(2018)年10月1日現在で14施設(36.9%)、精神科病院2施設、一般病院12施設。高槻市は、病院総数が19施設で、三島二次医療圏内の病院の半数は高槻市にある状況

- ・豊能二次医療圏の病院は47施設。そのうち精神科病院4施設、一般病院43施設

[特定機能病院等一定の要件を満たす病院数]

- ・三島二次医療圏の特定機能病院は、高槻市の大阪医科大学附属病院が唯一指定

- ・三島二次医療圏の地域医療支援病院は、本市では近い役割を果たす病院はあるものの該当病院はなく、高槻市の3施設(高槻赤十字病院、高槻病院、北摂総合病院)が指定を受けている状況

- ・本市では、在宅療養支援病院が2施設、在宅療養後方支援病院も2施設指定。公的医療機関等は1施設が指定

- ・周産期母子医療センターは本市にはなく、圏域内では高槻病院、大阪医科大学附属病院が指定を受けている

- ・吹田市では、それぞれの機能や役割を果たす病院がいずれも2か所以上指定

② 病床機能別施設数

- ・三島二次医療圏では、「急性期病床」が26施設で最も多く、次いで「慢性期病床」が15施設、「回復期病床」が10施設、「高度急性期」が8施設となっている。

- ・本市では、「急性期病床」のある病院が11施設と最も多く、「高度急性期病床」は、高槻市の7施設に対し、本市は1施設となっている。

- ・「回復期病床」については高槻市の5施設に比べ本市は3施設とやや少ないものの、「慢性期病床」は高槻市の5施設と比べ本市は7施設と多い。

図表-1-4-1 病床機能別医療機関数及び病床数

病床機能別	病床役割別医療機関数 (一般/療養) 延べ数				一般病床数				療養病床数	
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	回復期	慢性期
三島二次医療圏	8	26	10	15	887	3,192	664	569	234	857
茨木市	1	11	3	7	4	1,181	201	231	100	569
高槻市	7	12	5	5	883	1,802	344	140	134	248
摂津市	0	2	1	3	0	152	59	198	0	40
島本町	0	1	1	0	0	57	60	0	0	0
<参考>										
吹田市	6	9	3	6	1,680	1,814	81	243	124	320
箕面市	1	2	5	4	13	285	194	80	284	313

※病床数については平成29(2017)年7月1日時点 平成30(2018)年6月15日集計の病床機能報告

出典：「病床機能報告」(平成29(2017)年度)(厚生労働省)

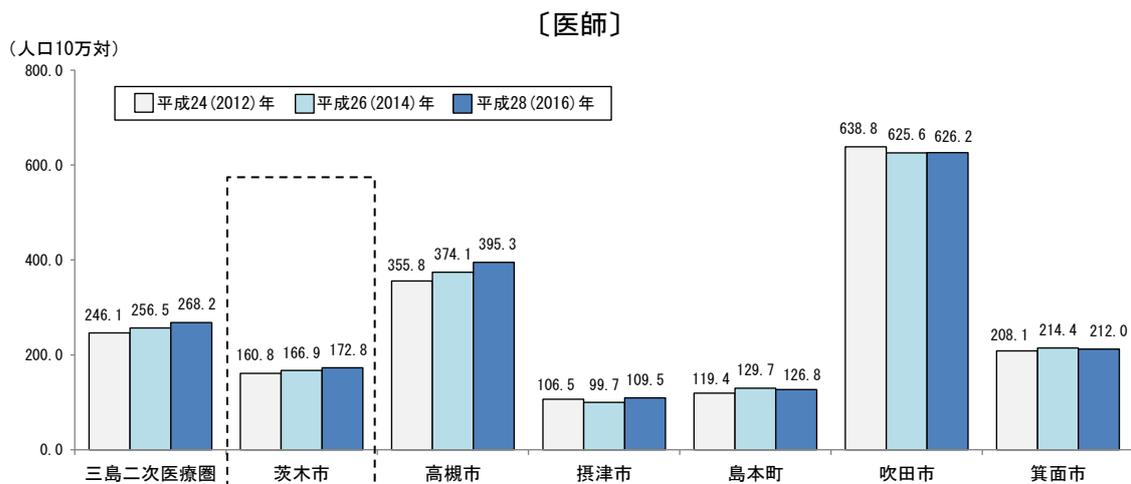
※病床機能報告は、病棟単位で報告することになっているため、1病院で病床機能が重複していることがある。

(2) 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の医療従事者配置状況

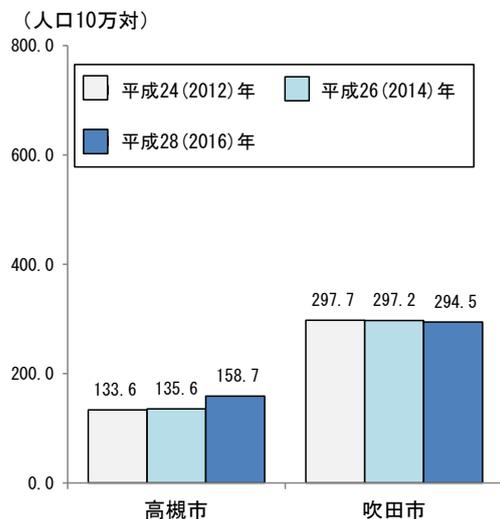
①医師・歯科医師・薬剤師数（平成28(2016)年末時点）

- ・人口10万対で見た医師数は三島二次医療圏では増加傾向にあり、島本町を除いて増加傾向となっている。一方、平成28(2016)年は対前年に比べ、三島二次医療圏では歯科医師は減少傾向にあるが、高槻市と島本町では増加傾向にあり、本市が最多
- ・薬剤師は三島二次医療圏では増加傾向にあるが、島本町のみ減少
- ・本市の医師数は、平成24(2012)年に比べて40人増（446人⇒486人）と増加しているものの、人口10万対では172.8で、隣接する高槻市や吹田市、箕面市に比べて少なく、また大阪府（283.1）や全国平均（251.7）に比べても少ない状況
- ・本市の歯科医師は、平成24(2012)年に比べ9人増加（187人⇒196人）し、人口10万対では三島二次医療圏では69.7と最も多いものの、大阪府（88.9）や全国（82.4）の数値を下回っている。
- ・薬剤師については、本市の場合、平成24(2012)年に比べ41人増加（829人⇒870人）しているものの、人口10万対では、二次医療圏内では島本町（800.8）、高槻市（354.5）に次いで3番目（309.3）。なお大阪府は290.2、全国は237.4

図表-1-4-2 医師・歯科医師・薬剤師数



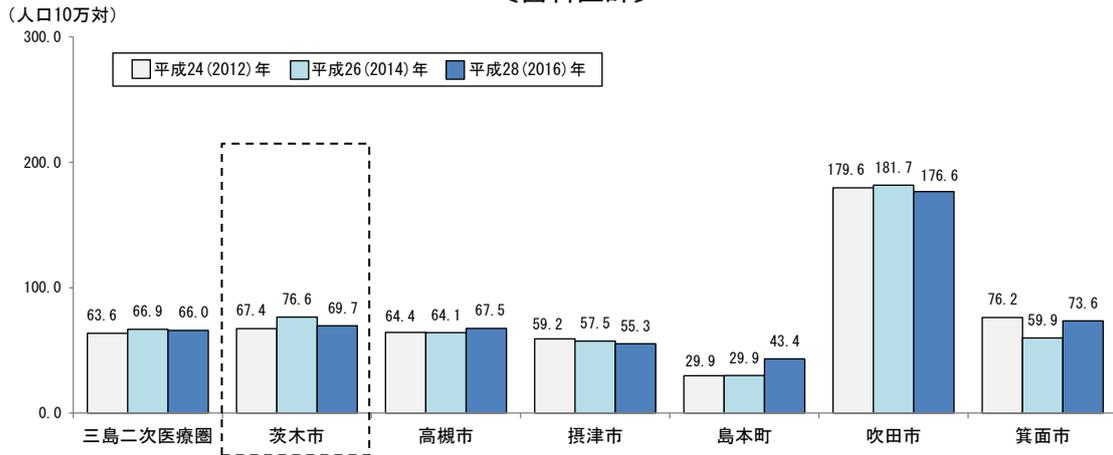
〔うち 医療機関附属の病院の勤務医師〕



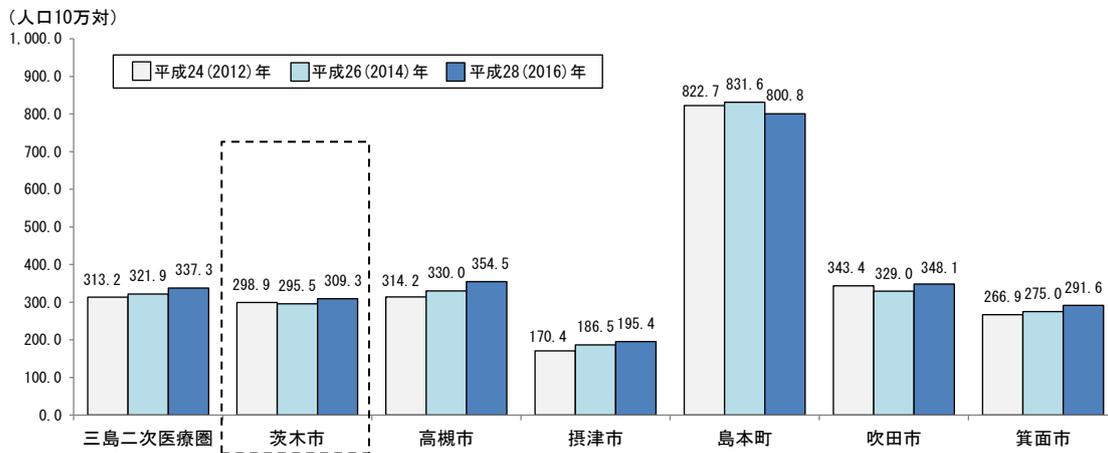
※医療期間とは、学校教育法において、医学又は歯学の教育を行うことに付随して設けられた病院及び分院をいい、大学研究所附属病院も含む。

図表-1-4-2 医師・歯科医師・薬剤師数（つづき）

〔歯科医師〕



〔薬剤師〕



出典：「平成28(2016)年 医師・歯科医師・薬剤師調査」(各年12月31日現在)(大阪府)
 算出に用いた人口は「大阪府の推計人口」(各年10月1日現在)(大阪府総務部統計課推計)

②診療科目ごとの医師数（平成28(2016)年末時点）

三島二次医療圏に勤務する医師は、「内科」が最も多く、なかでも高槻市が217人で最も多い。次いで「小児科」が多くなっている。

- ・本市は内科が39.2%で最も多く、次いで精神科が12.2%、外科が10.1%、消化器内科(胃腸内科)が9.9%と続いている。
- ・精神科の医師は他の市町に比べて多く、5%以上本市の割合が高くなっている。

I 本市を取り巻く二次医療圏の医療提供体制の現状整理

図表-1-4-3 診療科目ごとの医師数（勤務地別）

		(人・複数回答)																					
総数		内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科（胃腸内科）	腎臓内科	神経内科	糖尿病内科（代謝内科）	血液内科	皮膚科	アレルギー科	リウマチ科	感染症内科	小児科	精神科	心療内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科	乳腺外科	気管食道外科	消化器外科（胃腸外科）	
三島二次医療圏	1,914	449	51	124	169	19	26	49	19	78	15	49	1	172	119	34	139	14	24	20	4	60	
	100%	23.5%	2.7%	6.5%	8.8%	1.0%	1.4%	2.6%	1.0%	4.1%	0.8%	2.6%	0.1%	9.0%	6.2%	1.8%	7.3%	0.7%	1.3%	1.0%	0.2%	3.1%	
	茨木市	444	174	6	21	44	8	4	12	1	19	4	20	-	38	54	18	45	2	2	3	2	13
	100%	39.2%	1.4%	4.7%	9.9%	1.8%	0.9%	2.7%	0.2%	4.3%	0.9%	4.5%	-	8.6%	12.2%	4.1%	10.1%	0.5%	0.5%	0.7%	0.5%	2.9%	
	高槻市	1,346	217	39	92	110	11	20	36	17	49	7	21	1	116	63	14	77	9	22	17	1	47
	100%	16.1%	2.9%	6.8%	8.2%	0.8%	1.5%	2.7%	1.3%	3.6%	0.5%	1.6%	0.1%	8.6%	4.7%	1.0%	5.7%	0.7%	1.6%	1.3%	0.1%	3.5%	
	摂津市	89	49	5	6	11	-	2	1	1	8	4	6	-	15	2	2	12	3	-	-	-	-
100%	55.1%	5.6%	6.7%	12.4%	-	2.2%	1.1%	1.1%	9.0%	4.5%	6.7%	-	16.9%	2.2%	2.2%	13.5%	3.4%	-	-	-	-		
島本町	35	9	1	5	4	-	-	-	-	2	-	2	-	3	-	5	-	-	-	-	1	-	
100%	25.7%	2.9%	14.3%	11.4%	-	-	-	-	5.7%	-	5.7%	-	8.6%	-	-	14.3%	-	-	-	-	2.9%	-	
<参考>	吹田市	2,196	353	48	266	130	41	66	77	35	67	33	41	5	155	54	13	74	19	76	32	3	76
	100%	16.1%	2.2%	12.1%	5.9%	1.9%	3.0%	3.5%	1.6%	3.1%	1.5%	1.9%	0.2%	7.1%	2.5%	0.6%	3.4%	0.9%	3.5%	1.5%	0.1%	3.5%	
	箕面市	271	94	7	13	28	-	10	12	3	13	6	4	-	23	19	2	23	1	-	4	2	7
100%	34.7%	2.6%	4.8%	10.3%	-	3.7%	4.4%	1.1%	4.8%	2.2%	1.5%	-	8.5%	7.0%	0.7%	8.5%	0.4%	-	1.5%	0.7%	2.6%		

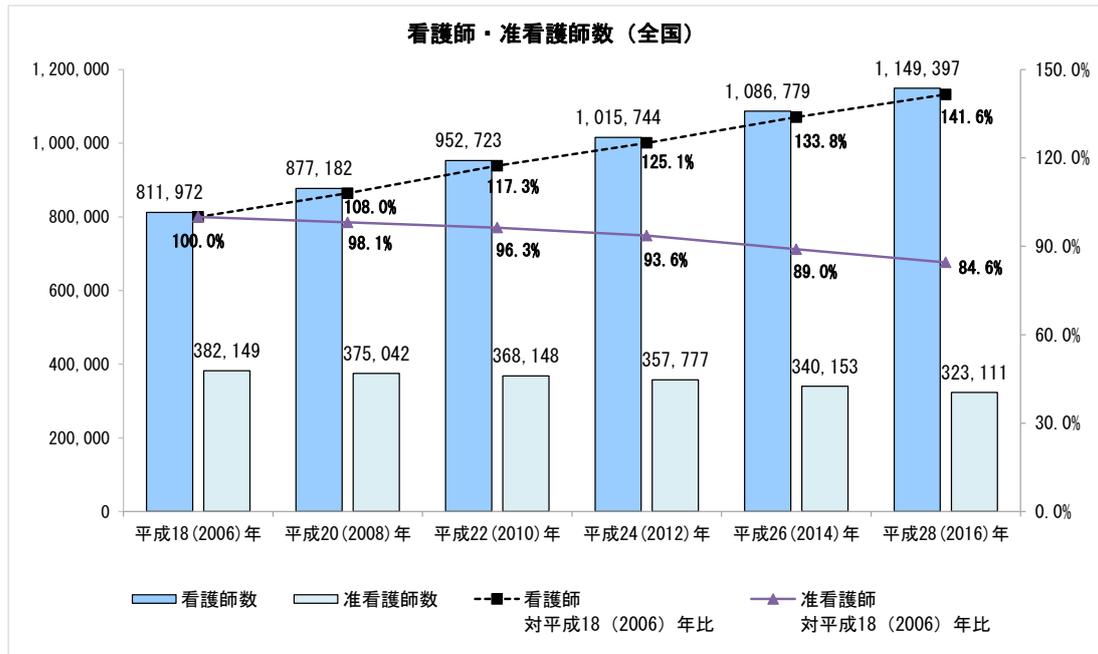
		泌尿器科	肛門外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	美容外科	眼科	耳鼻いんこう科	小児外科	産婦人科	産科	婦人科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	病理診断科	臨床検査科	救急科	臨床研修医	全科	その他	不詳
三島二次医療圏	57	18	55	138	24	5	108	64	9	76	1	17	106	58	73	15	6	23	142	7	30	2	
	3.0%	0.9%	2.9%	7.2%	1.3%	0.3%	5.6%	3.3%	0.5%	4.0%	0.1%	0.9%	5.5%	3.0%	3.8%	0.8%	0.3%	1.2%	7.4%	0.4%	1.6%	0.1%	
	茨木市	11	6	8	39	2	3	22	18	2	20	1	5	33	22	11	-	-	1	1	-	6	-
	2.5%	1.4%	1.8%	8.8%	0.5%	0.7%	5.0%	4.1%	0.5%	4.5%	0.2%	1.1%	7.4%	5.0%	2.5%	-	-	0.2%	0.2%	-	1.4%	-	
	高槻市	42	11	42	83	20	2	76	38	7	50	-	10	57	34	58	15	6	22	141	7	23	1
	3.1%	0.8%	3.1%	6.2%	1.5%	0.1%	5.6%	2.8%	0.5%	3.7%	-	0.7%	4.2%	2.5%	4.3%	1.1%	0.4%	1.6%	10.5%	0.5%	1.7%	0.1%	
	摂津市	2	1	3	11	2	-	7	5	-	3	-	2	13	1	3	-	-	-	-	-	1	-
2.2%	1.1%	3.4%	12.4%	2.2%	-	7.9%	5.6%	-	3.4%	-	2.2%	14.6%	1.1%	3.4%	-	-	-	-	-	-	1.1%	-	
島本町	2	-	2	5	-	-	3	3	-	3	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	1	
5.7%	-	5.7%	14.3%	-	-	8.6%	8.6%	-	8.6%	-	-	-	8.6%	2.9%	2.9%	-	-	-	-	-	-	2.9%	
<参考>	吹田市	52	10	66	102	22	4	69	62	18	106	2	9	37	81	87	20	7	49	102	-	32	23
	2.4%	0.5%	3.0%	4.6%	1.0%	0.2%	3.1%	2.8%	0.8%	4.8%	0.1%	0.4%	1.7%	3.7%	4.0%	0.9%	0.3%	2.2%	4.6%	-	1.5%	1.0%	
	箕面市	6	4	2	17	5	-	12	9	-	16	-	-	31	9	9	1	1	1	12	-	5	2
2.2%	1.5%	0.7%	6.3%	1.8%	-	4.4%	3.3%	-	5.9%	-	-	-	11.4%	3.3%	3.3%	0.4%	0.4%	0.4%	4.4%	-	1.8%	0.7%	

■ 最も高い ■ 2番目に高い

③ 看護師等医療従事者数

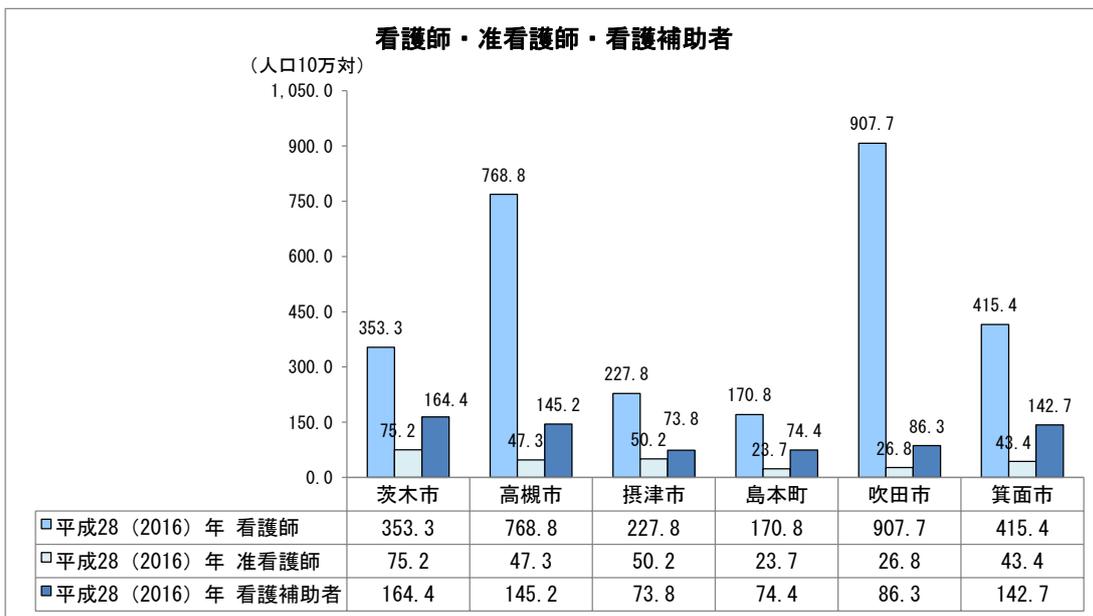
- ・全国的には、看護師数は増加しているのに対し、准看護師数は減少傾向
- ・人口10万対では、看護師は病床規模数が大きく、急性期の役割を持つ病院が多い高槻市と吹田市において看護師の配置が多い。
- ・准看護師と看護補助者は、人口10万対ではいずれも本市において配置が多い。

図表-1-4-4 看護師・准看護師従業者数（全国）



出典：「平成28年衛生行政報告例（就業医療関係者）」（各年末現在）（厚生労働省）

図表-1-4-5 看護師・准看護師・看護補助者数（三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市）

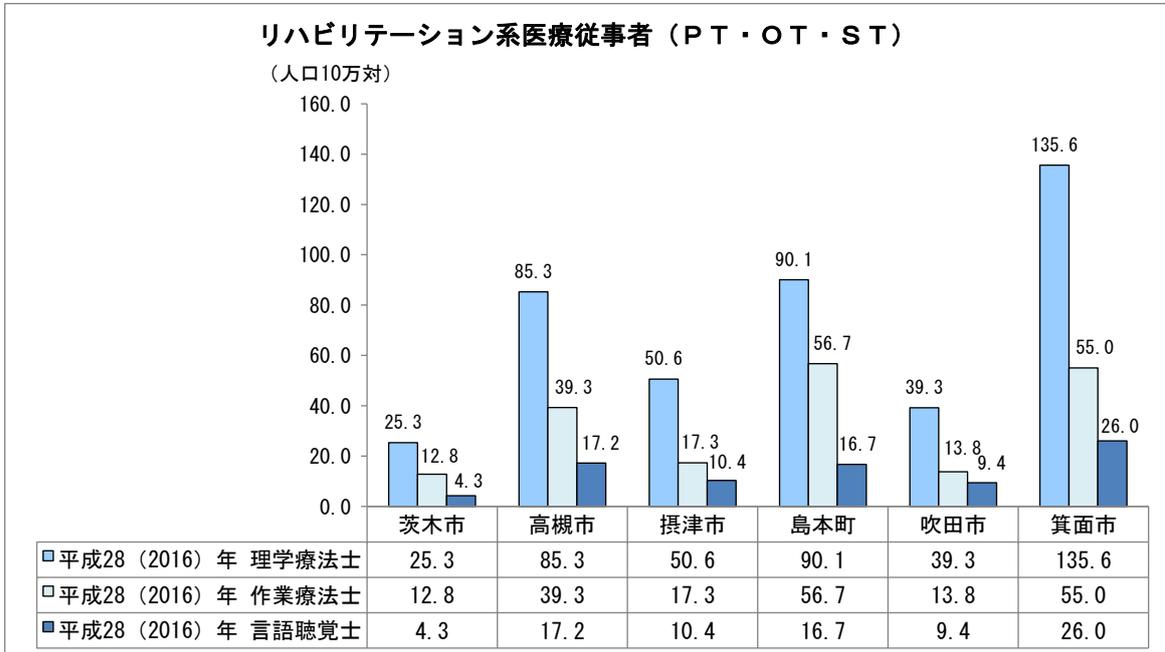


出典：病床機能報告（平成28（2016）年7月1日時点（平成29（2017）年2月17日集計）（厚生労働省）、大阪府推計人口（年報）をもとに作成

④ リハビリテーション関係医療従事者数

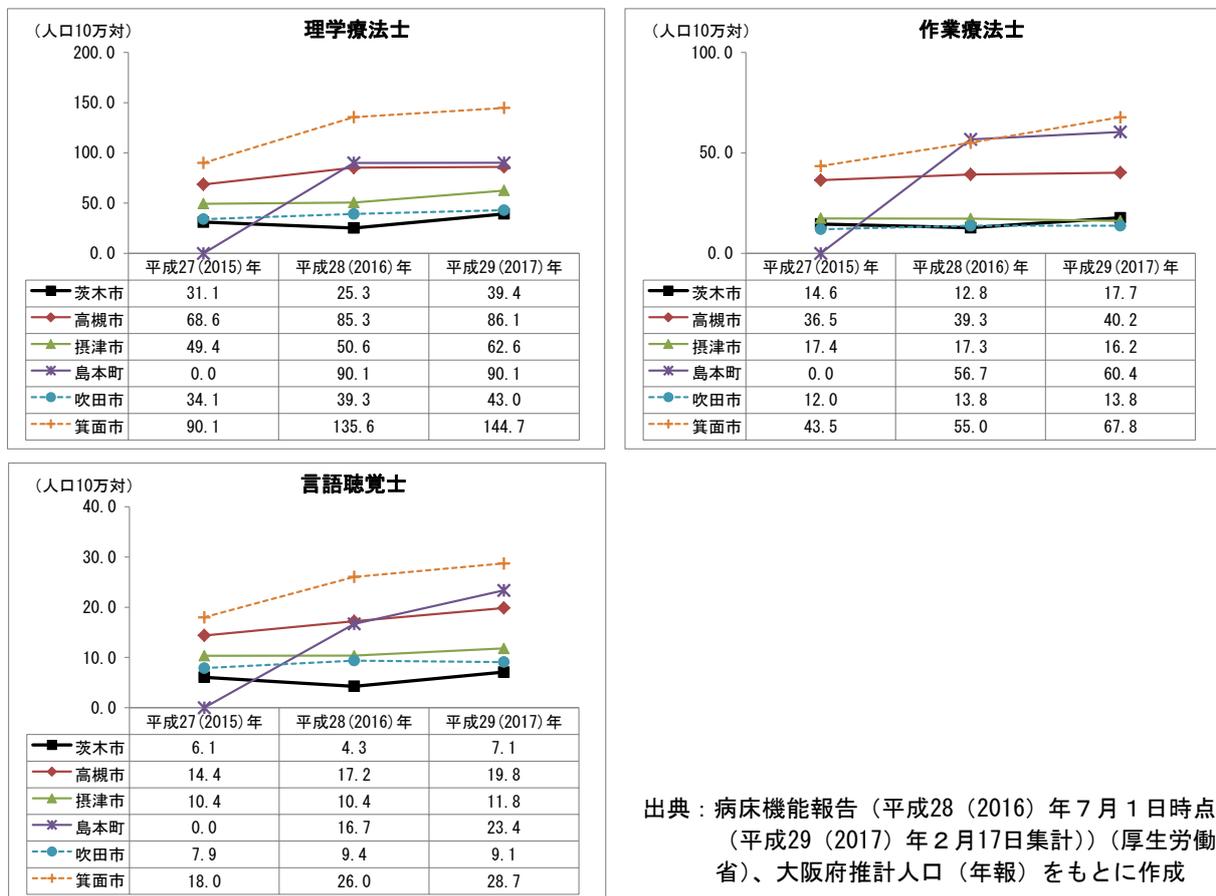
・作業療法士を除いて、回復期の病床数が多い箕面市が一番多く、次いで島本町、高槻市が多い。

図表-1-4-6 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士数（三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市）



出典：「病床機能報告」（平成28（2016）年7月1日時点（平成29（2017）年2月17日集計）（厚生労働省）、大阪府推計人口（年報）をもとに作成

図表-1-4-7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士数3か年推移（三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市）



出典：病床機能報告（平成28（2016）年7月1日時点（平成29（2017）年2月17日集計）（厚生労働省）、大阪府推計人口（年報）をもとに作成

(3) 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の診療科別医科診療所配置状況

- ・府内二次医療圏別一般診療所診療科目延数（人口10万対）を見ると、今後入院需要が見込まれる疾患に一部対応すると思われる内科、循環器内科、脳神経外科、5疾病の一つである糖尿病疾患に関連する糖尿病内科、周産期医療、小児医療に関連する産婦人科、小児科については医療圏全体には及ばないものの他と比較しそれほど大差はないと思われる。
- ・リハビリテーション科については、他の医療圏の中で三島二次医療圏が一番標榜診療所が少ない状況となっている。
- ・在宅療養支援診療所数については、三島二次医療圏内では140施設、全診療所の24.5%
- ・本市の在宅療養支援診療所の割合は25.3%（56施設）で、高槻市（25.2%）との差はない。
- ・吹田市（18.7%）、箕面市（19.8%）に比べると、本市の割合のほうが高い。

図表-1-4-8 府内二次医療圏別一般診療所診療科目延数（人口10万対）

	総数	内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科	腎臓内科	神経内科	糖尿病内科	血液内科	皮膚科	アレルギー科	リウマチ科	感染症内科	小児科	精神科	心療内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科	乳腺外科	気管食道外科	消化器外科	泌尿器科
医療圏計	94.9	57.8	4.3	10.2	14.8	1.4	2.8	2.4	0.4	12.0	5.8	4.4	0.2	16.8	6.9	5.0	13.5	0.0	0.1	0.5	0.3	0.5	3.8
豊能	92.7	53.9	4.8	12.2	13.2	1.1	2.8	1.9	0.2	10.0	5.5	4.4	0.1	16.8	7.3	5.2	12.3	0.0	0.0	0.8	0.2	0.4	2.2
三島	78.2	43.6	3.3	8.4	11.5	1.2	2.7	2.0	0.8	8.8	2.4	3.9	0.3	14.7	6.0	3.6	12.6	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	2.9
北河内	77.0	47.2	3.7	8.8	12.6	1.0	1.6	2.0	0.0	11.0	6.0	3.4	0.2	17.1	4.9	3.5	10.3	0.1	0.1	0.3	0.0	0.3	3.5
中河内	78.8	51.1	4.2	8.8	14.4	2.0	2.4	2.4	0.2	8.7	4.5	4.6	0.2	13.7	5.1	2.6	13.8	0.1	0.2	0.4	0.4	0.5	3.7
南河内	76.5	47.8	4.9	6.9	11.2	1.6	3.0	1.1	0.2	8.4	4.1	2.8	0.2	16.4	4.8	2.8	11.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3	2.5
堺市	87.2	49.9	3.1	9.1	14.0	1.3	3.1	2.6	0.1	9.1	6.6	4.3	0.1	13.8	6.6	4.5	11.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.7	3.5
泉州	74.5	48.7	3.4	8.9	12.5	1.2	2.5	1.4	0.3	7.9	3.1	2.8	0.2	14.4	5.4	3.3	12.7	0.0	0.0	0.2	1.0	0.3	2.1
大阪市	126.4	77.7	5.3	12.5	19.1	1.5	3.4	3.3	0.6	18.3	8.1	5.9	0.3	20.1	9.6	7.8	17.0	0.1	0.4	0.9	0.3	0.6	6.0

	肛門外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	美容外科	眼科	耳鼻いんこう科	小児外科	産婦人科	産科	婦人科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	病理診断科	臨床検査科	救急科	歯科	矯正歯科	小児歯科	歯科口腔外科
医療圏計	2.7	1.6	13.8	2.1	1.2	8.4	6.2	0.3	2.5	0.3	2.2	16.5	6.3	2.2	0.0	0.0	1.1	0.1	0.1	0.1	0.1
豊能	2.8	1.3	13.5	1.7	0.3	8.3	6.0	0.5	1.9	0.5	2.4	13.5	5.5	2.7	0.1	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
三島	2.8	1.6	9.8	1.3	0.4	7.5	5.5	0.4	1.9	0.0	1.2	11.0	4.0	1.7	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
北河内	1.5	1.1	11.6	0.9	0.2	6.6	5.3	0.0	1.8	0.1	1.3	13.3	5.2	1.3	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
中河内	1.9	1.8	14.1	0.7	0.4	7.3	5.8	0.1	2.1	0.2	1.3	17.0	4.6	1.7	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.1	0.1
南河内	2.0	1.8	11.5	1.0	0.2	6.6	4.8	0.2	2.6	0.2	1.1	16.6	3.9	2.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
堺市	2.3	0.8	11.7	1.4	0.6	7.9	4.7	0.1	2.6	0.4	1.7	15.4	4.3	2.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
泉州	2.4	2.5	12.1	0.6	0.2	7.0	5.8	0.2	2.5	0.2	1.6	13.4	5.0	2.3	0.0	0.0	1.0	0.1	0.0	0.1	0.1
大阪市	3.7	1.7	17.8	4.4	3.4	10.8	8.0	0.4	3.2	0.5	3.6	21.7	10.0	2.8	0.0	0.1	1.6	0.3	0.3	0.4	0.4

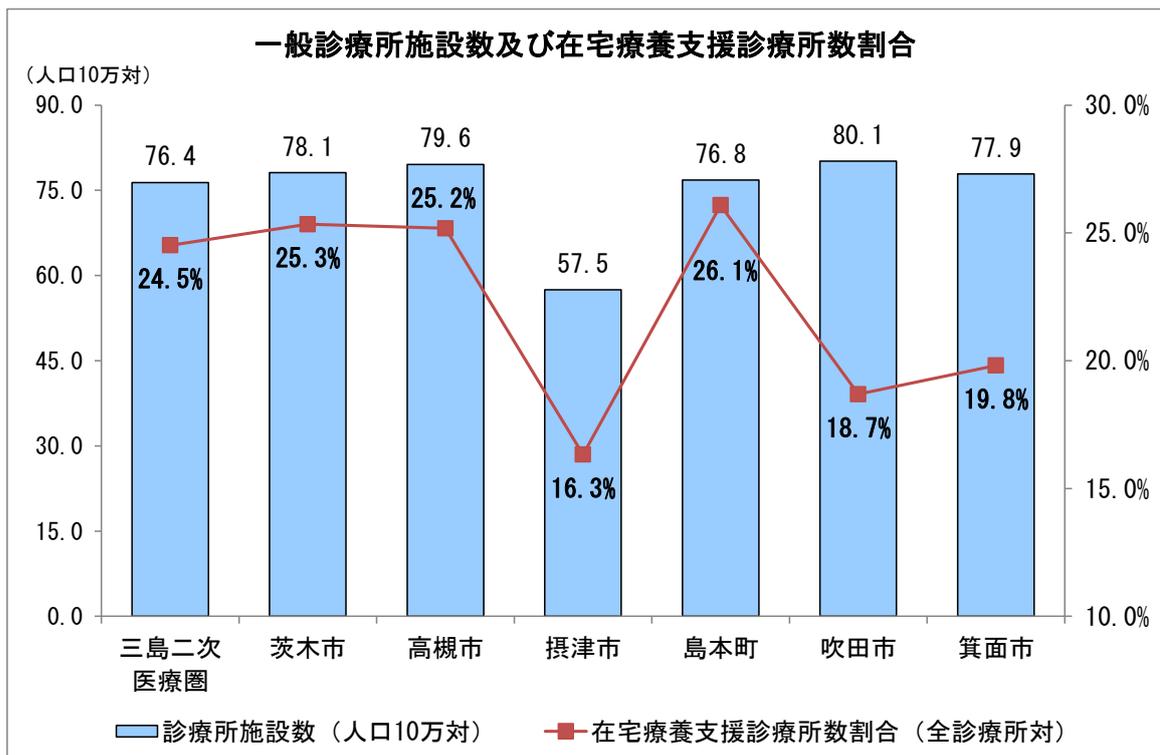
出典：「平成28（2016）年 医療施設調査 第9表 一般診療所診療科目延数、市町村・医療圏・保健所別」（厚生労働省）、大阪府の推計人口（平成28（2016）年10月1日現在）をもとに作成

図表-1-4-9 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の一般診療所施設数

市町	診療所施設数		うち在宅療養支援診療所数		
		人口10万対	府全体 1,697施設	人口10万対	全診療所に 占める割合
三島二次医療圏	571	76.4	140	18.7	24.5%
茨木市	221	78.1	56	19.8	25.3%
高槻市	278	79.6	70	20.0	25.2%
摂津市	49	57.5	8	9.4	16.3%
島本町	23	76.8	6	20.0	26.1%
<参考>					
吹田市	305	80.1	57	15.0	18.7%
箕面市	106	77.9	21	15.4	19.8%

出典：「保険医療機関・保険薬局の指定一覧」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口（平成30(2018)年10月1日現在）」

図表-1-4-10 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の一般診療所施設数及び在宅療養支援診療所数割合



出典：「保険医療機関・保険薬局の指定一覧」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口（平成30(2018)年10月1日現在）」

(4) 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の歯科・調剤・訪問看護ステーション診療所配置状況

① 歯科診療所数

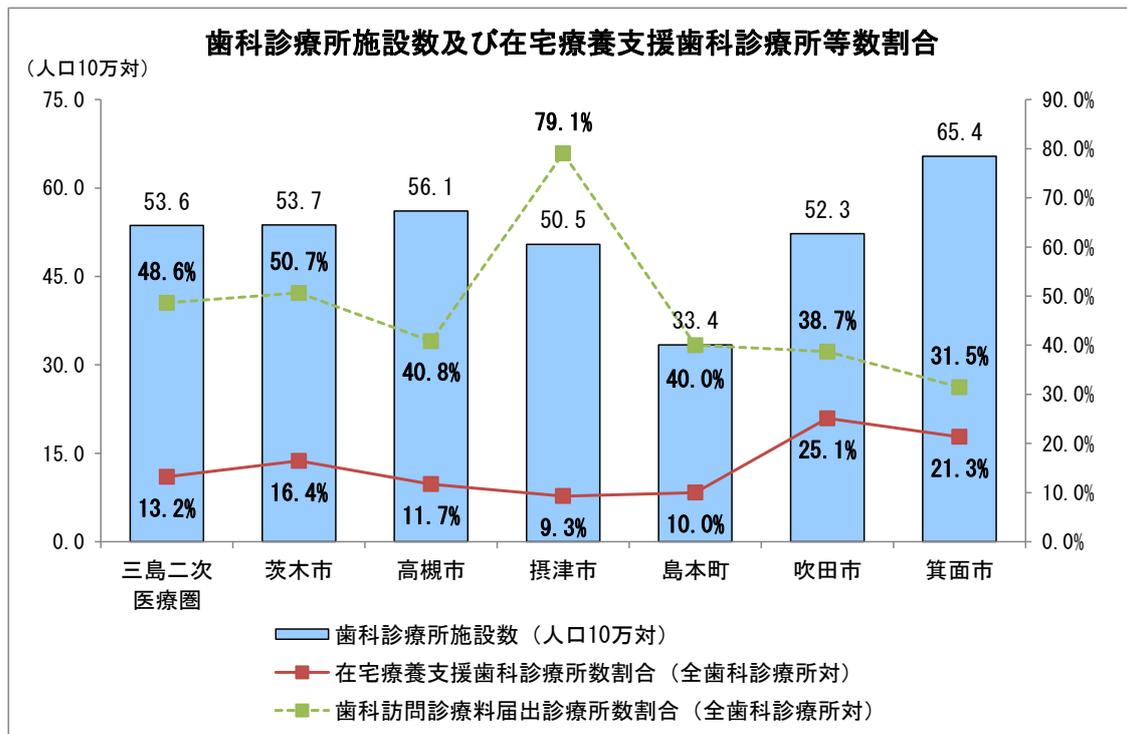
- ・三島二次医療圏では歯科診療所が401施設あり、高槻市が196施設で最も多いが、人口10万対では島本町を除き5市で大差はない。
- ・歯科訪問診療、又は患者同意のもと継続的な歯科訪問診療に対応した歯科診療所の割合は、三島二次医療圏については40%を超える状況。

図表-1-4-11 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の歯科診療所施設数

市町	歯科診療所施設数		<参考> 病院施設数(歯科)	うち在宅療養支援歯科診療所数			うち歯科訪問診療料届出診療所数		
	人口10万対	施設数		府全体1,129施設	人口10万対	全診療所に占める割合	府全体2,466施設	人口10万対	全診療所に占める割合
三島二次医療圏	401	53.6	9	53	7.1	13.2%	195	26.1	48.6%
茨木市	152	53.7	5	25	8.8	16.4%	77	27.2	50.7%
高槻市	196	56.1	3	23	6.6	11.7%	80	22.9	40.8%
摂津市	43	50.5	1	4	4.7	9.3%	34	39.9	79.1%
島本町	10	33.4	0	1	3.3	10.0%	4	13.4	40.0%
<参考>吹田市	199	52.3	7	50	13.1	25.1%	77	20.2	38.7%
<参考>箕面市	89	65.4	2	19	14.0	21.3%	28	20.6	31.5%

出典：「保険医療機関・保険薬局の指定一覧」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口」（平成30(2018)年10月1日現在）（大阪府）

図表-1-4-12 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の歯科診療所施設数及び在宅療養支援歯科診療所等数割合



出典：「保険医療機関・保険薬局の指定一覧」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口」（平成30(2018)年10月1日現在）（大阪府）

② 薬局数

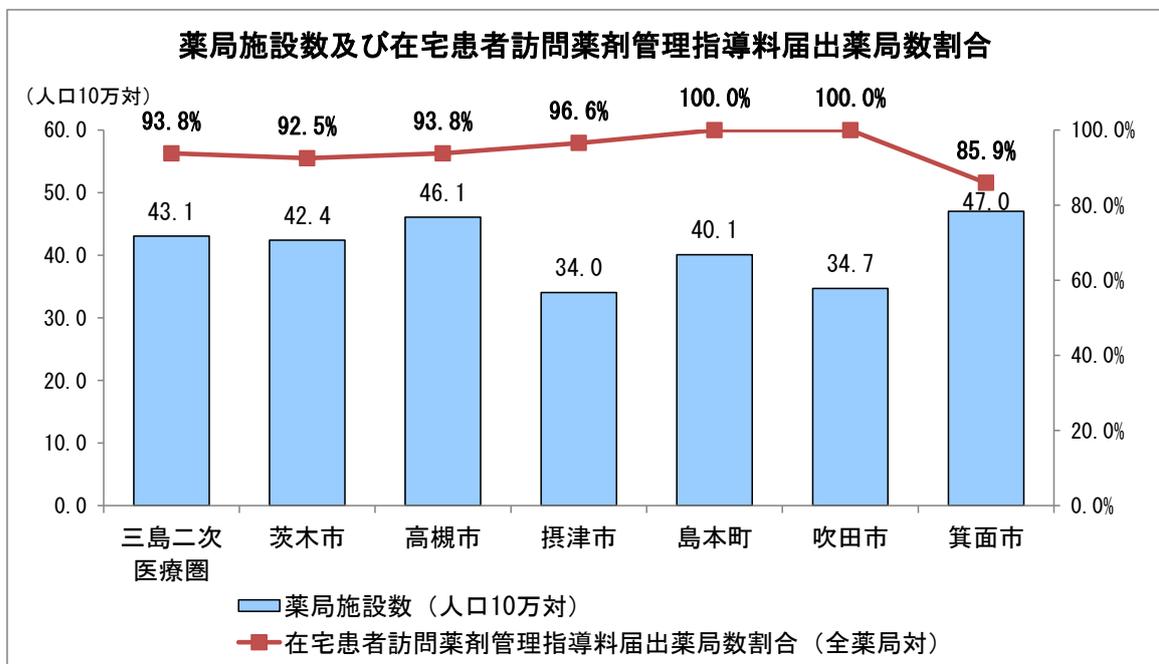
- ・薬局施設数は、人口10万対では摂津市、吹田市を除き大差はない。
- ・在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局数は、三島二次医療圏では302施設で人口10万対の施設数は高槻市が43.2で最も多い。

図表-1-4-13 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の薬局施設数

市町	薬局施設数		うち在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局数		
		人口10万対	府全体 3,828施設	人口10万対	全診療所に 占める割合
三島二次医療圏	322	43.1	302	40.4	93.8%
茨木市	120	42.4	111	39.2	92.5%
高槻市	161	46.1	151	43.2	93.8%
摂津市	29	34.0	28	32.9	96.6%
島本町	12	40.1	12	40.1	100.0%
<参考>					
吹田市	132	34.7	132	34.7	100.0%
箕面市	64	47.0	55	40.4	85.9%

出典：「保険医療機関・保険薬局の指定一覧」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口」（平成30(2018)年10月1日現在）（大阪府）

図表-1-4-14 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の薬局施設数及び在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局数割合



出典：「保険医療機関・保険薬局の指定一覧」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口」（平成30(2018)年10月1日現在）（大阪府）

③訪問看護ステーション数

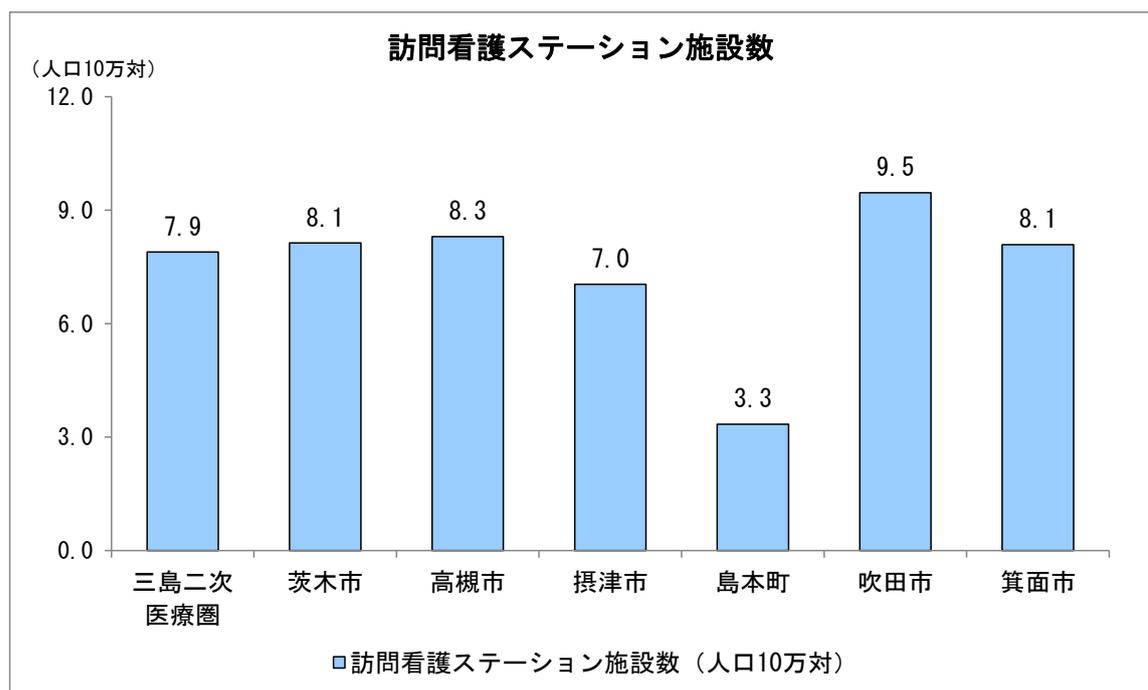
・訪問看護ステーション数を見ると、人口10万対では島本町を除き大差はない。

図表-1-4-15 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の訪問看護ステーション数

市町	訪問看護ステーション施設数		
		人口10万対	
三島二次医療圏	59	7.9	
茨木市	23	8.1	
高槻市	29	8.3	
摂津市	6	7.0	
島本町	1	3.3	
<参考>	吹田市	36	9.5
	箕面市	11	8.1

出典：「届出受理指定訪問看護事業所名簿」（平成30(2018)年6月29日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口（平成30(2018)年10月1日現在）」

図表-1-4-16 三島二次医療圏構成市町並びに吹田市、箕面市の訪問看護ステーション数



出典：「届出受理指定訪問看護事業所名簿」（平成30(2018)年6月29日現在）（近畿厚生局）、「大阪府の推計人口（平成30(2018)年10月1日現在）」

5. 二次医療圏の5疾病4事業に関わる医療提供体制の概況

(1) がん疾患にかかる医療提供体制

①がんの医療提供体制

◆がん診療（連携）拠点病院

- ・がん診療連携拠点病院は、全国には401施設あり、そのうち大阪府内には18施設ある。
- ・大阪府では、がん医療の充実を目指し、適切な情報提供をするために、府が定める要件を満たした医療機関について、大阪府がん診療拠点病院として47病院を指定している（平成30(2018)年4月1日現在）

◆主要がんの治療実施病院

- ・三島二次医療圏域では、手術実施病院数（人口10万対）は、摂津市だけが大阪府の数値を下回っているものの他市町では上回っている。
- ・本市については、それぞれの部位で対応できる病院があり、化学療法実施病院数においても、部位別に見ると数字は異なるものの、合計数はほとんど同様の結果となっている。
- ・放射線療法実施病院数は、高度医療を提供する病院に高額医療機器が集約されているため、手術療法、化学療法と異なり相対的に実施病院数が少なく、大阪大学医学部附属病院を擁する吹田市に多い状況

◆緩和ケアチーム実施病院

- ・がん診療連携拠点病院、がん診療拠点病院が配置されている高槻市、吹田市、箕面市においてチームが編成されている状況

図表-1-5-1 手術実施病院数

(施設)

	病院数	部位別がんの治療					人口10万対
		肺	胃	大腸	肝	乳腺	
三島二次医療圏	18	7	15	15	12	13	2.4
茨木市	8	1	8	7	4	5	2.8
高槻市	8	5	7	8	7	7	2.3
摂津市	1	1	-	-	-	-	1.2
島本町	1	-	-	-	1	1	3.3
<参考>							
吹田市	5	4	5	5	5	5	1.3
箕面市	2	-	1	1	1	2	1.4
大阪府	203	87	196	183	144	142	2.3

出典：6市町は「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月6日現在）

「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

図表-1-5-2 化学療法実施病院数

(施設)

	病院数	部位別がんの治療					人口10万対
		肺	胃	大腸	肝	乳腺	
三島二次医療圏	19	11	18	13	13	15	2.5
茨木市	8	5	8	7	5	7	2.8
高槻市	9	5	9	6	7	7	2.6
摂津市	1	1	-	-	-	-	1.2
島本町	1	-	1	-	1	1	3.3
<参考>							
吹田市	8	6	8	7	6	5	2.2
箕面市	2	1	1	1	1	2	1.4
大阪府	231	139	213	182	176	165	2.6

出典：6市町は「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月6日現在）

「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

図表-1-5-3 放射線療法実施病院数

(施設)

	病院数	部位別がんの治療					人口10万対
		肺	胃	大腸	肝	乳腺	
三島二次医療圏	3	3	3	-	-	3	0.4
茨木市	1	1	1	-	-	1	0.4
高槻市	2	2	2	-	-	2	0.6
摂津市	-	-	-	-	-	-	0.0
島本町	-	-	-	-	-	-	0.0
<参考>							
吹田市	4	3	4	-	-	4	1.1
箕面市	-	-	-	-	-	-	0.0
大阪府	67	56	55	-	55	60	0.76

※大腸・肝臓がんの放射線療法実施病院は「大阪府医療機関情報システム」に掲載されていない。

出典：6市町は「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月7日現在）

「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

図表-1-5-4 緩和ケアチーム実施病院

(施設)

	病院数	人口10万対
三島二次医療圏	5	0.67
茨木市	-	-
高槻市	5	1.42
摂津市	-	-
島本町	-	-
<参考>		
吹田市	6	1.61
箕面市	1	0.72
大阪府	83	0.94

出典：6市町は「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月7日現在）

※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

②がん医療にかかる病床

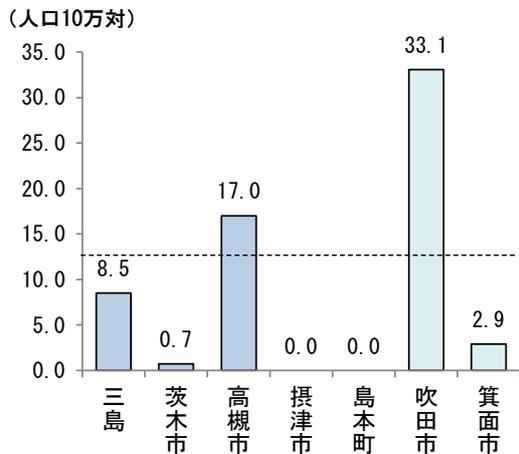
◆集中治療室（ICU）と高度治療室（HCU）

- ・人口10万対の集中治療室（ICU）と高度治療室（HCU）の病床数は、吹田市が一番多く、次いで高槻市となっている。
- ・大阪府平均に比べると三島二次医療圏は下回っており、本市も下回っている。

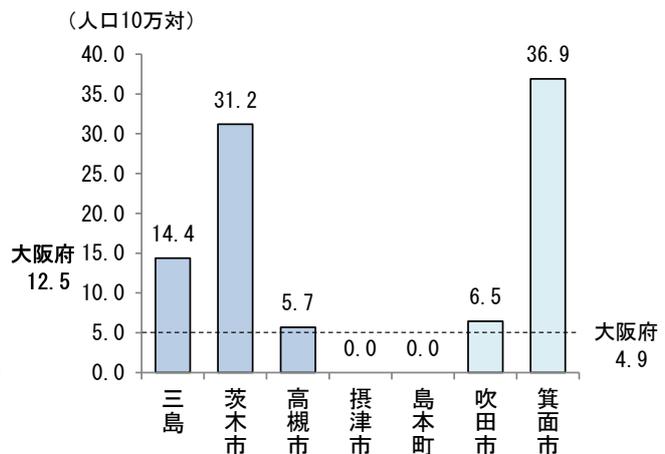
◆緩和ケア病床

- ・箕面市が一番多く、次いで本市となっている。

図表-1-5-5 がん治療を行う病院の人口10万対のICU・HCU病床数



図表-1-5-6 がん治療を行う病院の人口10万対の緩和ケア病床数



出典：6市町は「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月7日現在）

緩和ケア病床は「病床機能報告」（平成29(2017)年度）（平成29(2017)年6月15日現在）

入院基本料別（緩和ケア病棟入院料）で算出

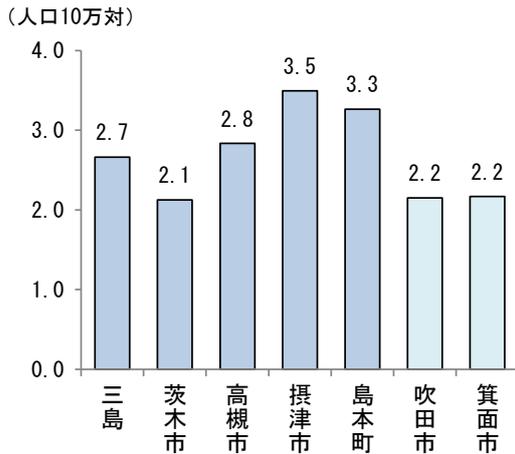
※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

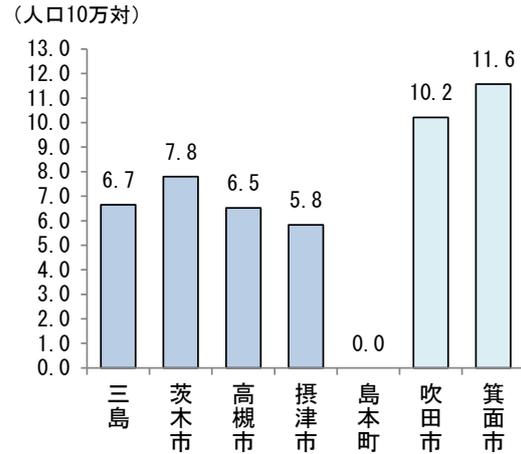
③がん地域連携クリティカルパスを導入している病院及び診療所

- ・三島二次医療圏では地域連携クリティカルパスを導入している病院は、20施設あり、うち高槻市が10施設と最も多く、本市は6施設と2番目に多くなっている。
- ・人口10万対では、圏域内では摂津市が3.5で最も多いのに対し、本市は2.1で最も少ない。
- ・一方、パスを導入している診療所は、50施設あり、うち高槻市が23施設、本市が22施設と2市で全体の90%を占めている。
- ・人口10万対で見ると、圏域内では本市が7.8と最も多い。

図表-1-5-7 がん地域連携クリティカルパス導入病院



図表-1-5-8 がん地域連携クリティカルパス導入診療所



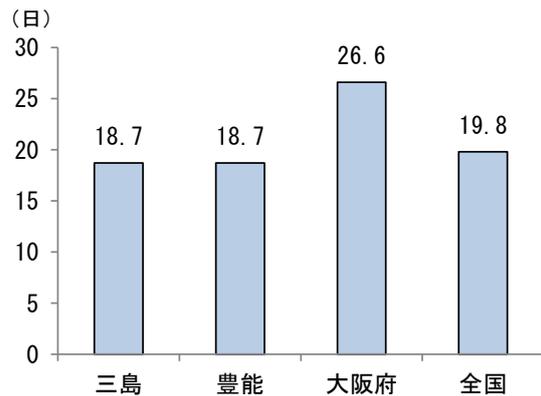
出典：6市町は「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月7日現在）

※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

④平均在院日数

- ・大阪府におけるがんの平均在院日数は26.6日で、全国の19.8日と比較して長い。
- ・三島二次医療圏は18.7日で全国と比較して短い。

図表-1-5-9 平均在院日数



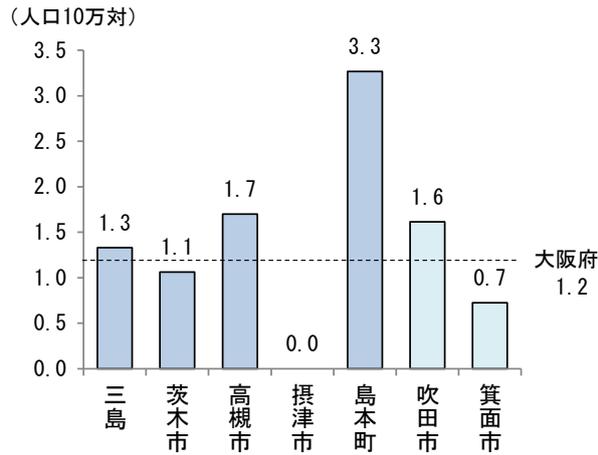
出典：「患者調査」（平成26(2014)年）（厚生労働省）

(2) 脳血管疾患にかかる医療提供体制

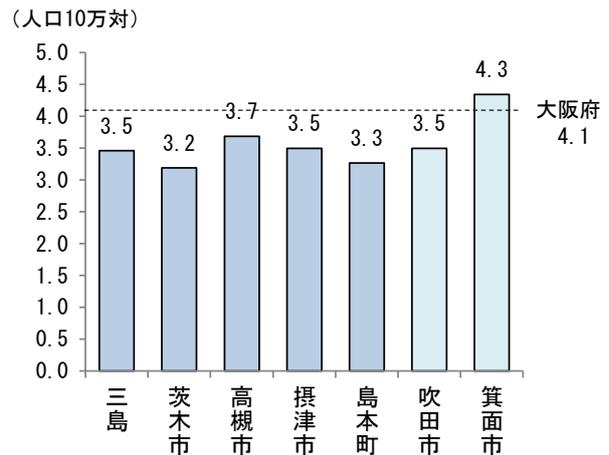
① 脳血管疾患の医療提供体制

- ・三島二次医療圏の脳卒中の急性期治療を行う病院は10施設（脳動脈瘤根治術可能な病院9施設、脳血管内手術可能な病院6施設、t-PA治療可能な病院5施設）、脳血管疾患リハビリテーションに対応する病院は26施設ある。
- ・本市の人口10万対での脳卒中の急性期治療を行う病院数は大阪府の平均を下回り、圏域内では2番目に少ない。また、脳血管疾患リハビリテーションに対応する病院数も本市は大阪府の平均を下回り、圏域内で最も少なくなっている。

図表-1-5-10 人口10万対の脳卒中の急性期治療の実施病院



図表-1-5-11 脳血管疾患等リハビリテーション実施病院



出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月6日現在）

※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

② 脳卒中治療にかかる病床

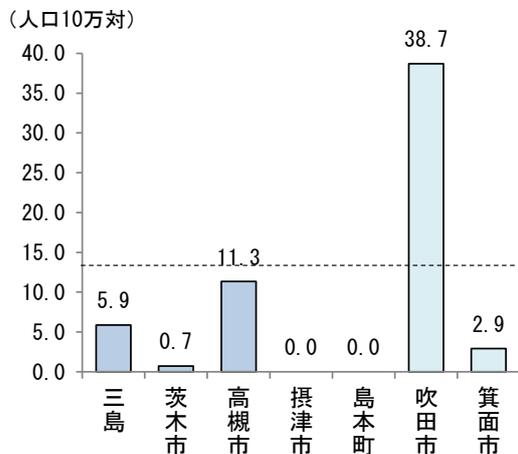
◆集中治療室（ICU）と高度治療室（HCU）

- ・集中治療室（ICU）がある病院は5施設、高度治療室（HCU）がある病院は2施設
- ・脳卒中専用集中治療室（脳卒中ケアユニット/SCU）がある病院はなく、近隣市では、吹田市に1施設あるのみ
- ・本市では、集中治療室（ICU）がある病院が1施設あるのみ

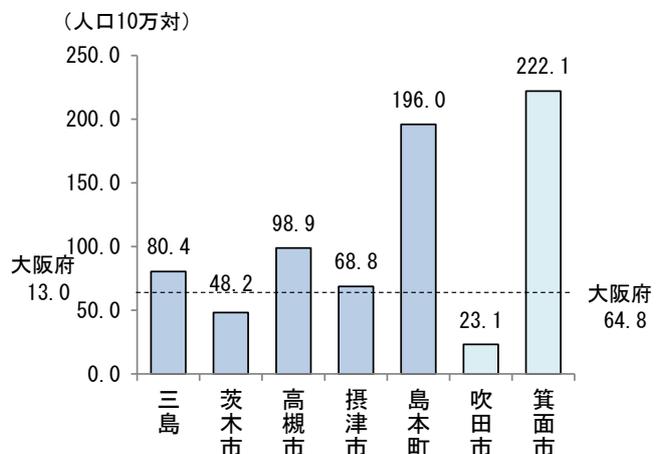
◆回復期リハビリテーション病床

- ・三島二次医療圏では8施設、604床あり、そのうち高槻市が半数の4病院、349床を占めている。
- ・本市は2施設で2番目に多くなっているものの、人口10万対の病床数は圏域内で最も少なく大阪府の平均を下回っている。

図表-1-5-12 脳卒中治療（急性期）を行う病院の人口10万対のICU・HCU・SCU病床数



図表-1-5-13 脳卒中治療（回復期）を行う病院の人口10万対の回復期リハビリテーション病床数



出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月7日現在）

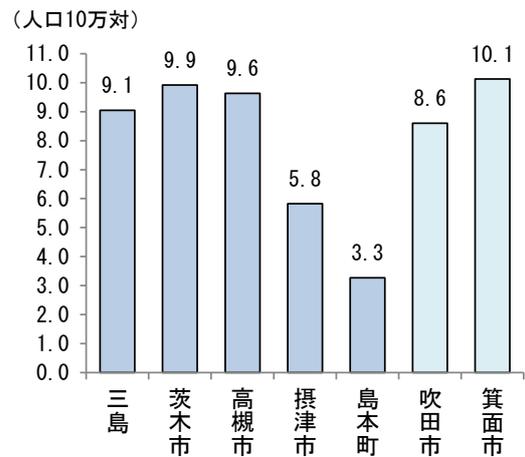
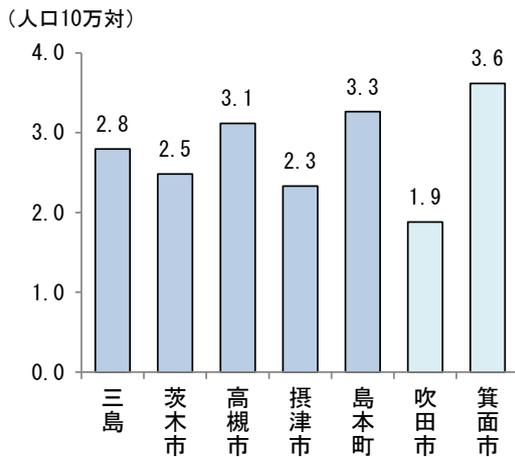
※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

③ 脳卒中地域連携クリティカルパスを導入している病院及び診療所

- ・三島二次医療圏では21施設の病院で導入され、本市では7施設となっている。
- ・人口10万対では2.5と、本市は、高槻市、島本町に次いで3番目の施設数となっている。
- ・一方、パスを導入している診療所は、68施設あり、うち高槻市が34施設、本市が28施設と全体の91.2%を占めている。
- ・人口10万対で見ると、圏域内では本市が9.9と最も多い。

図表-1-5-14 脳卒中地域連携クリティカルパス導入病院

図表-1-5-15 脳卒中地域連携クリティカルパス導入診療所

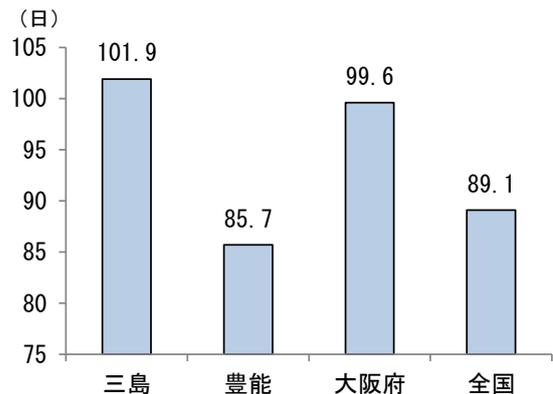


出典：6市町は「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月11日現在）
 ※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

④ 平均在院日数

- ・大阪府における脳血管疾患の治療での平均在院日数は、99.6日となっており全国の89.1日と比較して10.5日長い。
- ・三島二次医療圏は101.9日と全国・府と比較して長く、また豊能二次医療圏に比べ16.2日長い。

図表-1-5-16 平均在院日数



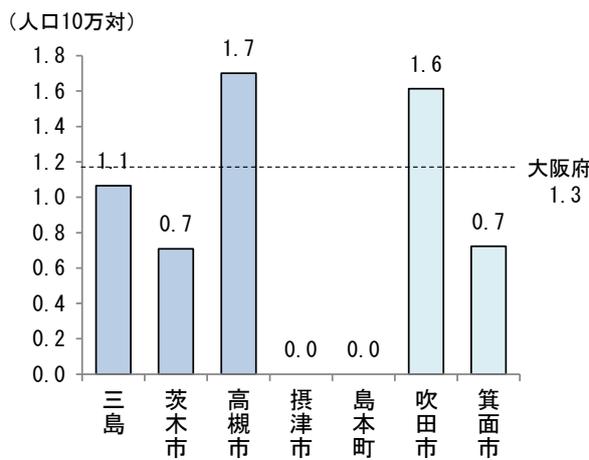
出典：「患者調査」（平成26(2014)年）（厚生労働省）

(3) 心血管疾患にかかる医療提供体制

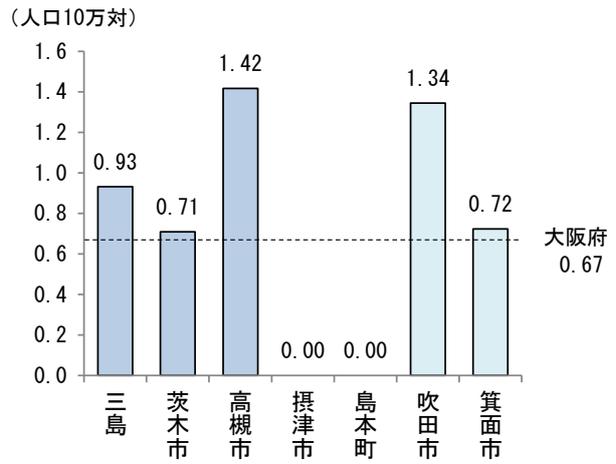
① 心血管疾患の医療提供体制

- ・三島二次医療圏の心血管疾患の急性期治療を行う病院は8施設（経皮的冠動脈形成術（PTCA）可能な病院7施設、経皮的冠動脈ステント留置術可能な病院8施設、心臓カテーテル法による血管内超音波検査可能な病院3施設、冠動脈バイパス術可能な病院2施設）、心大血管疾患リハビリテーションに対応する病院は7施設ある。
- ・本市の人口10万対での心血管疾患の急性期治療を行う病院数は大阪府及び圏域の平均と比較すると少ない。

図表-1-5-17 人口10万対の心血管疾患の急性期治療の実施病院



図表-1-5-18 心大血管疾患リハビリテーション実施病院



出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月6日現在）

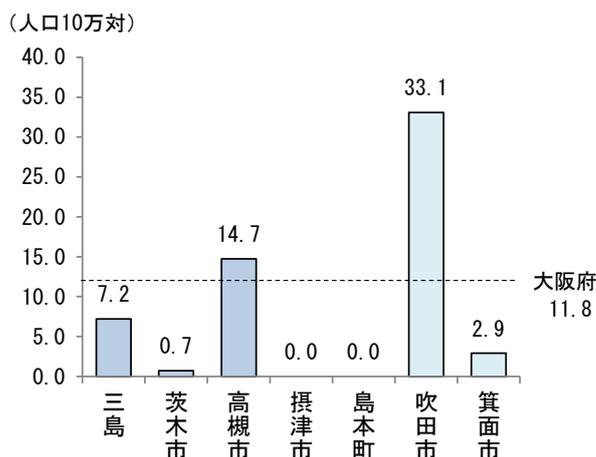
※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

② 心血管疾患治療にかかる病床

◆集中治療室（ICU）と高度治療室（HCU）

- ・集中治療室（ICU）がある病院は4施設、高度治療室（HCU）がある病院は3施設
- ・冠状動脈疾患専門集中治療室（CCU）がある病院はなく、近隣市の吹田市に2施設ある。
- ・本市では、済生会茨木病院に集中治療室（ICU）があり、病床数が2床となっている。

図表-1-5-19 心血管疾患治療を行う病院の人口10万対のICU・HCU病床数



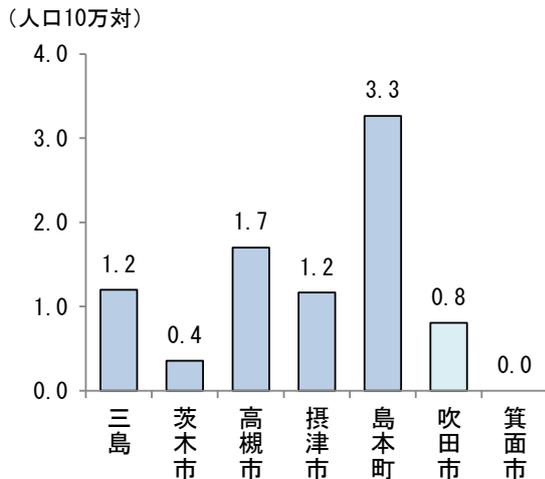
出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月11日現在）

※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

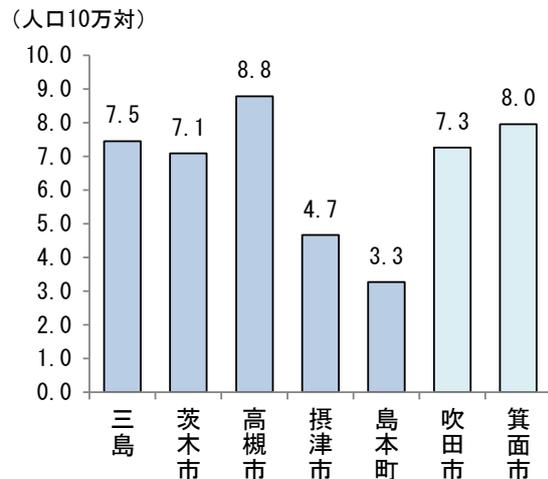
③ 急性心筋梗塞地域連携クリティカルパスを導入している病院及び診療所

- ・三島二次医療圏では9施設の病院で導入され、本市では1施設となっている。
- ・人口10万対では0.4と、本市は最も少ない。
- ・一方、パスを導入している診療所は、56施設あり、うち高槻市が31施設、本市が20施設と全体の91.1%を占めている。
- ・人口10万対で見ると、圏域内では高槻市が8.8と最も多く、本市は7.1と2番目に多くなっている。

図表-1-5-20 急性心筋梗塞地域連携クリティカルパス導入病院



図表-1-5-21 急性心筋梗塞地域連携クリティカルパス導入診療所



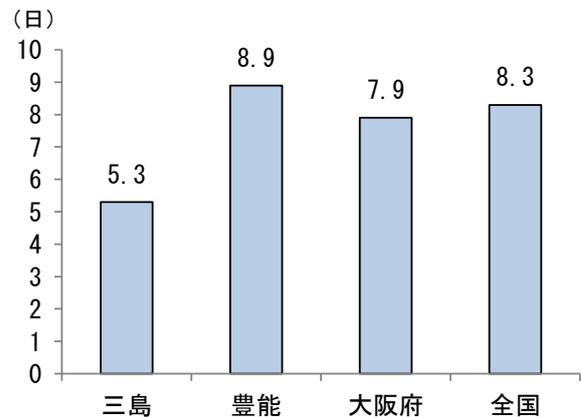
出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月11日現在）

※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

④ 平均在院日数

- ・大阪府における心血管疾患の治療での平均在院日数は、7.9日となっており全国の8.3日と比較して短い。
- ・三島二次医療圏は5.3日と全国と比較して短くなっている。

図表-1-5-22 平均在院日数



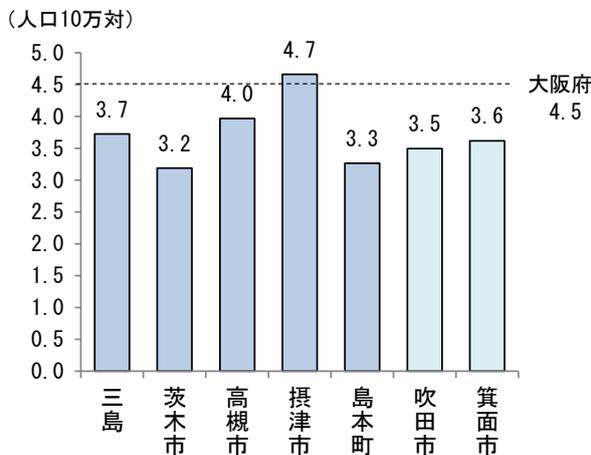
出典：「患者調査」（平成26(2014)年）（厚生労働省）

(4) 糖尿病疾患にかかる医療提供体制

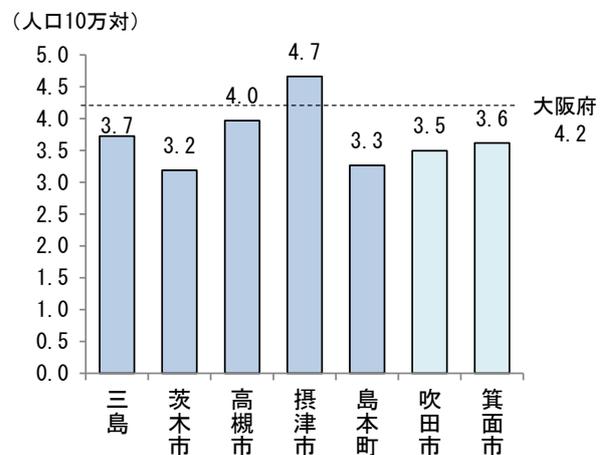
① 糖尿病疾患の医療提供体制

- ・三島二次医療圏の糖尿病の治療を行う病院は28施設で、うち、治療法として最も多いインスリン療法が可能な病院が26施設となっている。糖尿病に関する注射薬を外来で導入を行っている病院が13施設、合併症治療として網膜光凝固術もしくは血液透析が可能な病院は各12施設となっている。
- ・本市で糖尿病の治療を行う病院は9施設で、そのうちインスリン療法が可能な病院が8施設、網膜光凝固術もしくは血液透析が可能な病院は各4施設となっている。
- ・人口10万対での糖尿病治療を行う病院数は、摂津市を除く5市町で府平均を下回っている。
- ・三島二次医療圏の糖尿病重症化予防（患者教育）を行う病院は28施設ある。

図表-1-5-23 人口10万対の糖尿病治療の実施病院



図表-1-5-24 人口10万対の食事療法、運動療法、自己血糖測定の実施病院



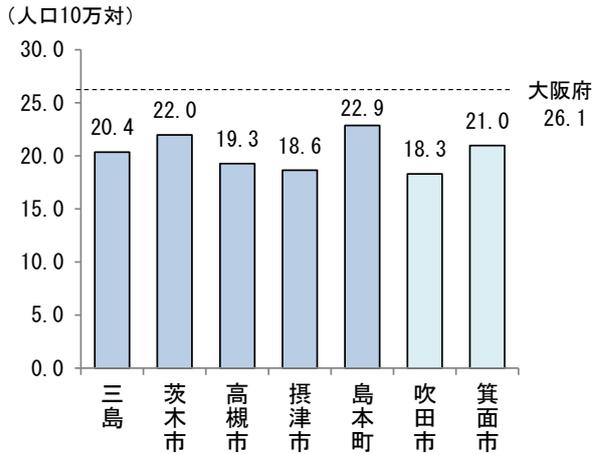
出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月13日現在）

※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）
大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

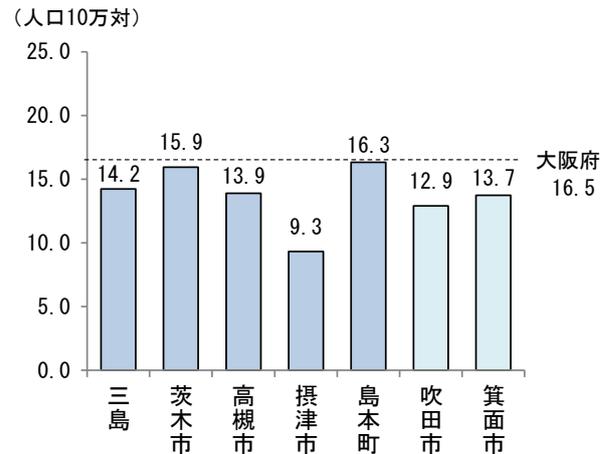
② 糖尿病治療を行う一般診療所

- ・三島二次医療圏の糖尿病の治療を行う診療所は153施設で、うち、インスリン療法が可能な診療所が113施設となっている。糖尿病に関する注射薬を外来で導入を行っている診療所が37施設、合併症治療として網膜光凝固術が可能な診療所は28施設となっている。
- ・本市で糖尿病の治療を行う診療所は62施設で、そのうちインスリン療法が可能な診療所が44施設、糖尿病に関する注射薬を外来で導入している診療所が17施設、網膜光凝固術が可能な診療所は10施設となっている。
- ・三島二次医療圏の糖尿病重症化予防（患者教育）を行う診療所は107施設ある。

図表-1-5-25 人口10万対の糖尿病治療の実施一般診療所



図表-1-5-26 人口10万対の食事療法、運動療法、自己血糖測定の実施一般診療所

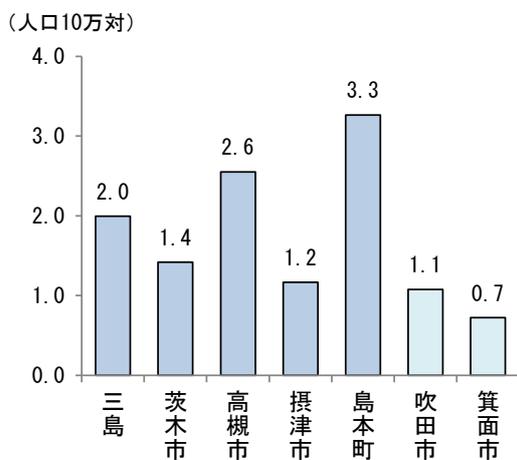


出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月13日現在）
 ※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30年10月31日現在）
 大阪府は「第7次大阪府医療計画」より引用（平成29(2017)年6月30日現在）

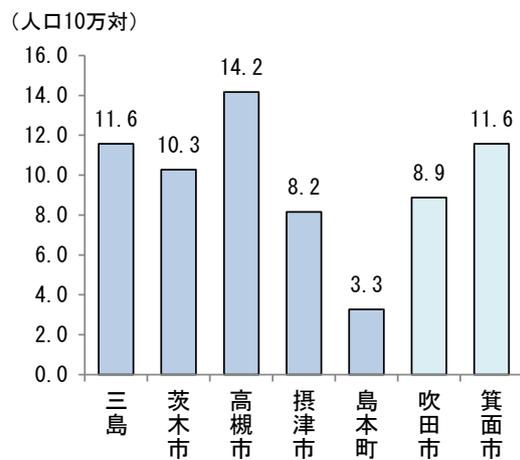
③ 糖尿病地域連携クリティカルパスを導入している病院及び診療所

- ・三島二次医療圏では15施設の病院で導入され、本市では4施設となっている。
- ・一方、パスを導入している診療所は、87施設あり、うち高槻市が50施設、本市が29施設と2市で全体の90.8%を占めている。
- ・導入診療所を人口10万対で見ると、圏域内では高槻市が14.2と最も多く、本市は10.3と2番目に多くなっている。

図表-1-5-27 糖尿病地域連携クリティカルパス導入病院



図表-1-5-28 糖尿病地域連携クリティカルパス導入診療所



出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月11日現在）
 ※「人口10万対」算出に用いた人口は、各市町の住民基本台帳人口（平成30(2018)年10月31日現在）

(5) 精神疾患にかかる医療提供体制

① 精神疾患の医療提供体制

- ・三島二次医療圏の精神科医療を行う病院は9施設、診療所は32施設となっている。
- ・病院9施設全てが本市又は高槻市にあり、圏域内では精神科専門の病院は本市と高槻市で充実している状況。

図表-1-5-29 精神科医療を行う病院数

		(施設)		
		一般病院精神科等	精神科病院	計
三島二次医療圏		3	6	9
	茨木市	1	3	4
	高槻市	2	3	5
	摂津市	-	-	-
	島本町	-	-	-
豊能二次医療圏※		8	5	13
	吹田市	5	1	6
	箕面市	2	2	4
北河内二次医療圏		4	7	11
中河内二次医療圏		1	4	5
南河内二次医療圏		3	5	8
堺市二次医療圏		4	5	9
泉州二次医療圏		3	17	20
大阪市二次医療圏		22	1	23
大阪府		48	50	98

※豊能二次医療圏合計には豊中市、池田市、豊能町、能勢町も含まれる。

出典：「こころの健康総合センター調べ」（平成31(2019)年1月24日現在）（大阪府）

(6) 救急医療にかかる医療提供体制

① 救急医療の医療提供体制

◆初期救急

- ・大阪府内では病院6施設、診療所37施設（平成29(2017)年2月現在）が休日・夜間における初期救急医療を実施
- ・本市では、茨木市保健医療センター附属急病診療所で内科と歯科を実施
- ・小児科は、三島二次医療圏において平成25(2013)年度から、小児初期救急医療体制の広域化を図るものとし、高槻島本夜間休日応急診療所で実施
- ・眼科・耳鼻咽喉科は、大阪市救急医療事業団が運営する中央急病診療所（大阪市西区）において、休日昼間及び土曜日午後並びに365日準夜帯の診療を実施

◆二次救急

- ・大阪府内には救急告示医療機関が287施設あり（平成30(2018)年10月15日現在）、そのうち本市には9施設ある（平成29(2017)年12月7日現在）。

◆三次救急

- ・大阪府内には平成29(2017)年6月30日現在、16施設が整備されている。
- ・三島二次医療圏には大阪府三島救命救急センターの施設が、豊能二次医療圏には大阪大学医学部附属病院と大阪府済生会千里病院の2施設がある。

◆二次・三次医療機関の施設基準届出施設

- ・高槻市と吹田市では、施設基準に適合する医療機関が多くあり、重篤な患者等に対する高度な医療を提供できる体制が整っている。
- ・本市でもハイケアユニット入院医療管理料（2018年12月1日現在は特定集中治療室管理料）を算定できる体制を確保している医療機関がある。
- ・院内トリアージ実施料に該当する施設基準の届出を提出している医療機関は高槻市8施設、吹田市4施設、本市では1施設となっている。

② 救急搬送状況

- ・本市の平成29(2017)年中の重症度別搬送人員は、第1位が軽症（8,667人）、第2位が中等症（4,979人）、第3位が重症（189人）、第4位が死亡（152人）となっている。

図表-1-5-30 二次救急告示病院

(施設)

		二次救急
三島二次医療圏		23
	茨木市	9
	高槻市	11
	摂津市	2
	島本町	1
〈参考〉	吹田市	9
	箕面市	1

出典：「大阪府の救急医療体制」（平成30(2018)年12月17日現在）（大阪府）

(7) 災害医療にかかる医療提供体制

① 災害医療の医療提供体制

<p>◆災害拠点病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の通知に基づき府が指定する医療機関であり、多発外傷、挫滅症候群、広範囲熱傷等、災害時に多発する重症・重篤患者の救命医療を実施。 ・三島二次医療圏においては大阪府三島救命救急センター及び大阪医科大学附属病院をあわせて指定 ・豊能二次医療圏においては大阪府済生会千里病院、大阪大学医学部附属病院を指定 <p>◆特定診療災害医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における循環器疾患、消化器疾患、アレルギー疾患、小児・周産期医療、精神疾患等の専門診療。 <p>◆市災害医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の医療救護活動の拠点として市地域防災計画で位置付ける医療機関。 <p>◆災害医療協力病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての二次救急告示医療機関。
--

図表-1-5-31 市町村災害医療センター一覧

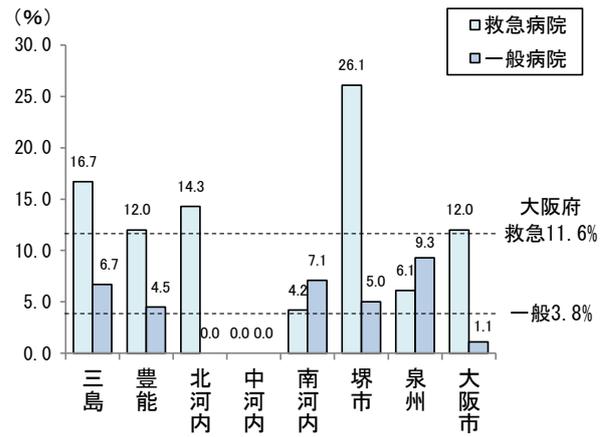
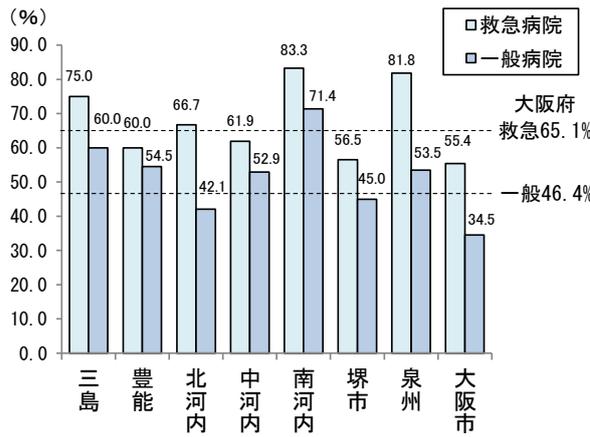
	市災害医療センター	(参考) 救護所
茨木市	茨木市保健医療センター	茨木市保健医療センター 小・中学校 10 か所
高槻市	大阪府三島救命救急センター	小・中学校 9 校、 市内二次救急 7 病院（みどりヶ丘病院、高槻病院、第一東和会病院、うえだ下田辺病院、大阪医科大学三島南病院、北摂総合病院、高槻赤十字病院）
摂津市	摂津医誠会病院	〔応急救護所〕 災害現場付近 〔医療救護所〕 新鳥飼公民館及び休日応急診療所
島本町	大阪府三島救命救急センター	〔応急救護所〕 必要に応じ設置 〔医療救護所〕 ふれあいセンター、小中学校等の保健室 等（あらかじめ定めた場所） 〔町救護拠点病院〕 水無瀬病院
吹田市	吹田市民病院	6 地域ごとに 1 か所を指定（中学校）、被害状況に応じて設置
箕面市	箕面市立病院	〔応急救護所〕 最初に開設する避難所の保健室 〔医療救護所〕 市立病院に準ずる医療を提供できる医療機関

出典：「大阪府地域防災計画 関連資料集」（平成29年12月修正）（大阪府）

- ・災害時の院内組織体制等を定める災害マニュアルは、平成29(2017)年6月現在、一般病院で未整備が多い。
- ・災害時でも病院機能を提供し続けるためにどのような備えをするかといった業務継続計画（BCP）の整備率は救急告示病院で11.6%、一般病院で3.8%にとどまっている状況である。

図表-1-5-32 二次医療圏別災害マニュアル策定率（平成29(2017)年6月現在）

図表-1-5-33 二次医療圏別BCP策定率（平成29(2017)年6月現在）



出典：「第7次大阪府医療計画」（平成30(2018)年3月）（大阪府）

(8) 周産期医療にかかる医療提供体制

① 周産期医療の医療提供体制

- ・三島二次医療圏の周産期医療患者の対応を行う病院は6施設、診療所は17施設となっている。
- ・本市では病院が2施設、診療所が6施設で、周産期母子医療センターを設置する医療機関はない。
- ・周産期母子医療センターは高槻市に2施設、吹田市に3施設あり、大阪府全体で23施設ある。

図表-1-5-34 周産期医療患者対応医療機関数

	病院	診療所	計	(施設)	
				総合周産期母子医療センター	地域周産期母子医療センター
三島二次医療圏	6	17	23	1	1
茨木市	2	6	8	-	-
高槻市	4	9	13	1	1
摂津市	-	1	1	-	-
島本町	-	1	1	-	-
＜参考＞					
吹田市	6	12	18	1	2
箕面市	1	2	3	-	-
豊能二次医療圏	9	28	37	1	3
北河内二次医療圏	9	22	31	1	-
中河内二次医療圏	6	15	21	-	2
南河内二次医療圏	6	10	16	-	2
堺市二次医療圏	6	19	25	-	1
泉州二次医療圏	10	19	29	1	2
大阪市二次医療圏	22	77	99	2	6
大阪府	74	207	282	6	17

出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成31(2019)年1月25日（大阪府）、周産期母子医療センターは、「総合周産期母子医療センター指定一覧」（平成29(2017)年6月12日現在）、「地域周産期母子医療センター認定一覧」（平成30(2018)年7月30日現在）（大阪府）

(9) 小児医療にかかる医療提供体制

① 小児医療の医療提供体制

- ・三島二次医療圏の小児医療患者対応医療機関数は、病院では小児科が15施設、小児外科が1施設、診療所では小児科が112施設、小児外科が2施設ある。
- ・小児外科を標榜する病院は高槻市に1施設ある。
- ・診療所は、本市では小児科が41施設あり、高槻市の51施設に次いで多く、診療所では高槻市にない小児外科が2施設ある。
- ・三島二次医療圏内の応急診療所は高槻島本夜間休日応急診療所があり、市民で小児科を受診している人は、平成28(2016)年度は5,907人、全体の35.2%で、減少傾向にある。
- ・小児救急電話相談（ダイヤル#8000）利用者実績を見ると三島二次医療圏全体では、増加傾向にあり、4市町の中では、各年度本市が最も多く利用している。

図表-1-5-35 小児医療患者対応医療機関数

(施設)

	小児科			小児外科		
	病院	診療所	計	病院	診療所	計
三島二次医療圏	15	112	127	1	2	3
茨木市	4	41	45	-	2	2
高槻市	10	51	61	1	-	1
摂津市	1	16	17	-	-	-
島本町	-	4	4	-	-	-
<参考>						
吹田市	6	55	61	2	2	4
箕面市	1	14	15	-	-	-

出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月6日現在）

図表-1-5-36 人口10万人対の小児医療患者対応医療機関数

(施設)

	小児科		
	病院	診療所	計
三島二次医療圏	2.0	14.9	16.9
茨木市	1.4	14.5	15.9
高槻市	2.8	14.5	17.3
摂津市	1.2	18.6	19.8
島本町	-	13.1	13.1
<参考>			
吹田市	1.6	14.8	16.4
箕面市	0.7	10.1	10.9

出典：「大阪府医療機関情報システム」（平成30(2018)年12月6日現在）

算出に用いた人口は「住民基本台帳人口」（平成30(2018)年9月末日現在）（各市町）

6. 二次医療圏の地域医療・在宅医療に関わる医療提供体制の概況

(1) 地域医療にかかる医療提供体制

①地域医療の医療提供体制

- ・三島二次医療圏内の地域医療支援病院は3施設が承認されているが、全て高槻市内の病院である。
- ・吹田市には地域医療支援病院として承認を受けている病院が2施設、箕面市には1施設ある。
- ・三島二次医療圏内の地域包括ケア病棟入院料の加算のための施設基準を満たす病院は11施設、回復期リハビリテーション病棟入院料は8施設となっている。開放型病院共同指導料は11施設となっており、人口10万対の数値では、本市はいずれの加算も三島二次医療圏平均を下回っている。

図表-1-6-1 地域医療支援医療機関数

	施設数（施設）	施設名称
三島二次医療圏	3	
茨木市	-	-
高槻市	3	高槻病院、北摂総合病院、高槻赤十字病院
摂津市	-	-
島本町	-	-
〈参考〉		
吹田市	2	大阪府済生会吹田病院 大阪府済生会千里病院
箕面市	1	箕面市立病院
大阪府	36	

出典：「地域医療支援病院の承認病院」（平成30(2018)年2月23日現在）（大阪府）、人口及び世帯数は「住民基本台帳人口」（平成29(2017)年9月末日現在）（各市町）及び「大阪府推計人口」（平成29(2017)年10月1日現在）（大阪府統計課）

(2) 在宅医療にかかる医療提供体制

① 在宅医療の医療提供体制

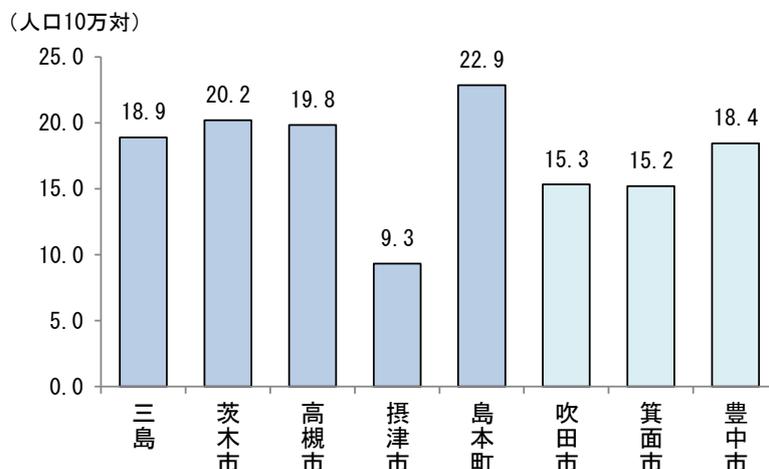
- ・三島二次医療圏における在宅療養支援病院として承認されている病院は7施設、在宅療養後方支援病院として承認されている病院は6施設、在宅療養支援診療所として承認されている診療所は142施設、計155施設ある。
- ・在宅療養支援病院・診療所のうち、入退院支援加算の届出を行っている医療施設は、三島二次医療圏では13施設で、高槻市が8施設で最も多く、豊中市が6施設、本市と吹田市が4施設となっている。
- ・退院時共同指導料加算の届出を行っている施設は、三島二次医療圏では64施設あり、高槻市が37施設、豊中市が26施設で、本市は19施設と3番目に多い。
- ・在宅時医学総合管理料の届出を行っている医療施設は三島二次医療圏では146施設で、高槻市が72施設で最も多く、次いで本市の58施設となっている。
- ・訪問看護指示料の施設数は102施設で、高槻市と豊中市が54施設、本市が37施設となっている。

図表-1-6-2 在宅療養支援病院・診療所

(施設)				
	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	在宅療養支援診療所	計
三島二次医療圏	7	6	142	155
茨木市	2	2	57	61
高槻市	4	4	70	78
摂津市	-	-	8	8
島本町	1	-	7	8
<参考>				
吹田市	4	2	57	63
箕面市	1	-	21	22
豊中市	3	2	75	80

出典：「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）

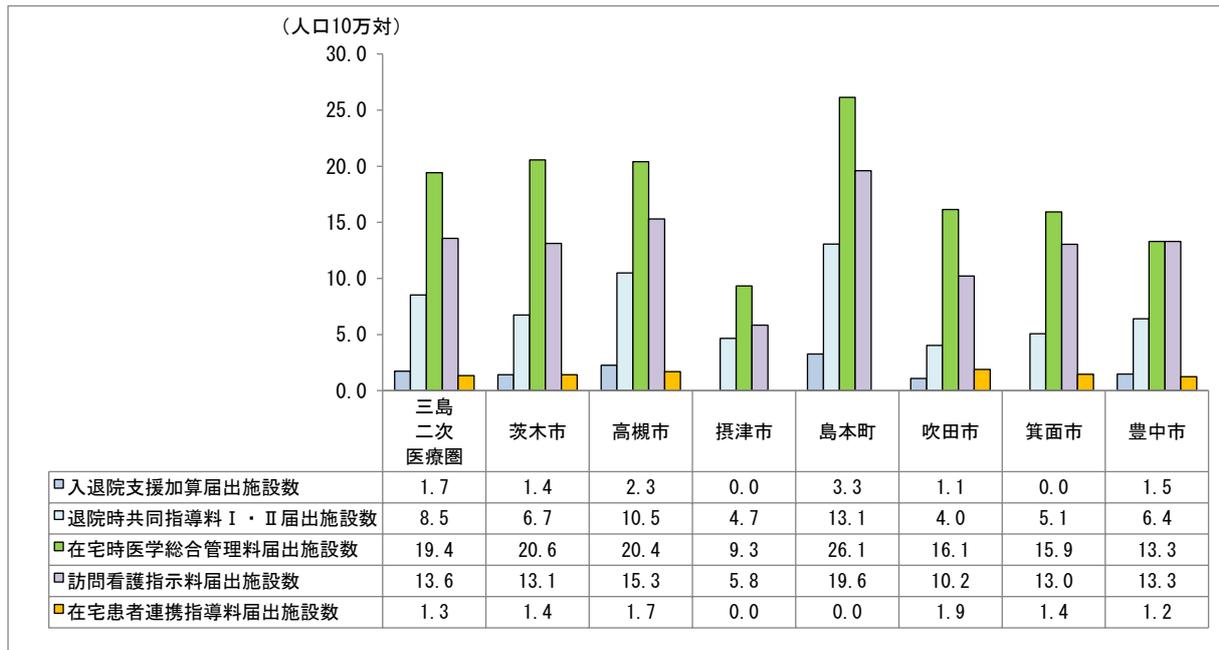
図表-1-6-3 在宅療養支援診療所（人口10万対）



出典：「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）

算出に用いた人口は「住民基本台帳人口」（平成30(2018)年9月末日現在）（各市町）

図表-1-6-4 在宅療養支援病院・診療所の施設基準届出施設数



出典：入退院支援加算届出施設数、在宅時医学総合管理料届出施設数は「施設基準の届出受理状況」（平成30(2018)年10月1日現在）（近畿厚生局）、それ以外は「大阪府医療機関情報システム」（大阪府）、算出に用いた人口は「住民基本台帳人口」（平成30(2018)年9月末日現在）（各市町）